

# リアホナ



特別号——

イエス・キリストの  
教会によろこ

新会員に向けた  
預言者からの勧め, 2ページ

すべての会員に知って  
ほしいこと, 10ページ

10の新しい伝統, 26ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイング、ティーター・F・ウークトルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラー、リンダ・ステル・クーバー、ラリー・ポーター、ガートン・R・バル、ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バーラー、ヒビアン・ポールセン、サラ・R・ポーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェーブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インター:フリタニー・ジョンズ・ビーム、ニコール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー、オーヌ、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・パーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、『リアホナ』注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

『リアホナ』への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:liahona@ldschurch.org

『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリシタ語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タミル語、タミル語、中国語、チェコ語、デルク語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウエー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines October 2006.

Japanese. 26990 300

『リアホナ』は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は"Gospel Library"(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

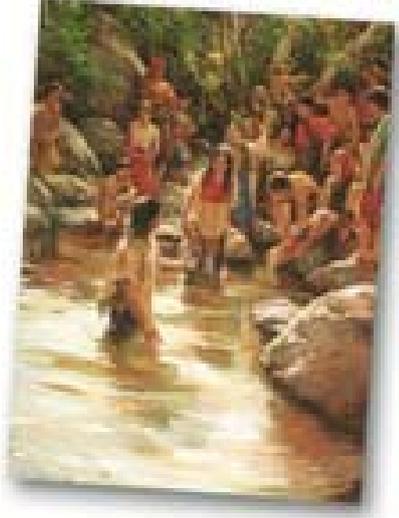
For Readers in the United States and Canada:

October 2006 no. 10 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——完全な希望の輝き 新会員の皆さんへ
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
6 福音にあって喜び
10 新会員すべてに知ってほしいこと、会員歴の長い人すべてに留意してほしいこと
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
17 宗教は違っても家族を愛する 七十人 ウォルター・F・ゴンサレス
25 家庭訪問メッセージ——神権の祝福を受ける
26 新会員が取り入れる新しい伝統 七十人 F・メルビン・ハモンド
30 教会の慣習を知り、自分の居場所を見つける ジャン・ピンボロー
36 困難を乗り越える ラリー・ヒラー
40 末日聖徒の声
高架下の信仰
グレッグ・カールソン
もう二度と教会には行かない
オレグ・バラバシユ
自分の正しい居場所
フランシスコ・ハビエル・ララ・エルナンデス
44 これからどうすればよいのでしょうか
リチャード・M・ロムニー、ビクター・D・ケーブ
48 知っておくと役立つ言葉



10 新会員すべてに知ってほしいこと、
会員歴の長い人すべてに
留意してほしいこと

今月号の『リアホナ』へようこそ

最近改宗された方へ

今月号の『リアホナ』は、あなたのために作成されました。中には使徒や預言者の、靈感と愛にあふれた勧告が載っています。また、あなたが新会員として現在しているような経験をしたことのある一般の会員からのアドバイスも載っています。情報や靈感を求めて読むなら、今月号の『リアホナ』は現在も、また将来にもあなたの役に立つことでしょう。あなたには、教会が真実であるという霊的な証があるでしょう。けれども、それでもやはり学んだり、生活を変えたりする必要があるようになるかもしれません。今月号の

『リアホナ』を読むと、そうした状況になったときに物事を正しくとらえ、上手に対処できるようになるでしょう。

教会員になって長い年月が過ぎた方へ

新会員向けの『リアホナ』が届くのは違和感があると思われるかもしれませんが。しかし新会員が直面する問題をもっとよく認識して、今月号の『リアホナ』を読むと、教会での経験や福音の知識を活用して、新会員の人々の友人や良い相談相手になれるでしょう。この『リアホナ』や、中の記事をたどって一つか二つでも紹介したい人がい

## 青少年

- 20 正しい選択をする価値  
ベロニカ・ガルシア・ワーカー
- 22 質疑応答——  
わたしが教会に入ったために、  
家族や友達の中に、  
わたしが下した決断に  
疑問を抱く人がいます。  
どのように答えればよいでしょうか。
- 35 家 メーガン・ワーカー
- 39 アイデアリスト——  
末日聖徒の若人となる
- 49 ポスター——  
わたしのもとに  
来なさい



今月号のどこかに隠れている  
CTRリングを捜しながら、  
総大会での預言者の言葉をよく聞き、  
よく読む決心を  
してください。



るなら、どうか紹介してください。自国の配送センターで今月号を余分に入手することができます。アメリカとカナダでは、<http://www.ldscatalog.com>から注文することもできます。まずはワードまたは支部の指導者に聞いてみてください。すでに予備として何冊か購入してあるかもしれませんし、その人に『リアホナ』を贈る計画があるかもしれません。

### 宣教師へ

この『リアホナ』にある記事は、最近改宗した人々にとって力となり、これからどのようなことが起こるのかを知る手だてとなるで

## フレンド

- F2 預言者の声——末日の預言者は語る
- F4 分かち合いの時間——今日、よげんしゃにしがいます  
エリザベス・リックス
- F6 バプテスマへのたび
- F8 バプテスマのせいやくをまもる ジェニファー・ローズ
- F10 もう一度清く アン・ベントリー・ワドゥプス
- F13 歌——什分の一を主に  
ロニー・ドブソン・アダムズ
- F14 小さなお友だちへ——  
義のために立ち上がる  
七十人 ウォルフガング・H・ポール
- F16 次は何をすればよいでしょうか？

### F10 もう一度清く



### 表紙

写真/ジョン・ルーク、  
クリスティーナ・スミス、  
写真はイメージです

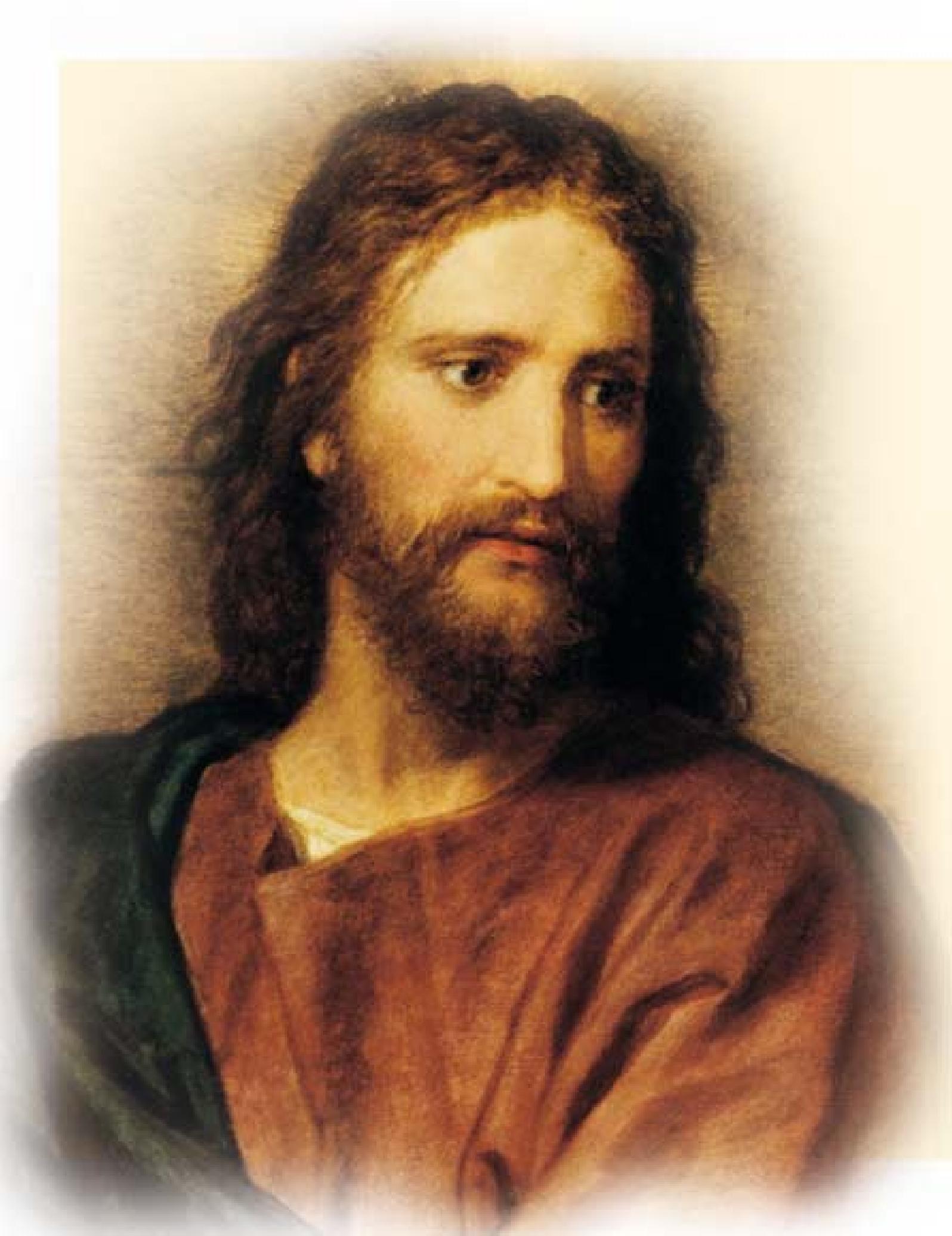
### 「フレンド」表紙

写真/クリスティーナ・スミス、  
写真はイメージです

### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	17	聖餐	44
証	6, 36	聖文研究	26
祈り	17, 26, 40, F14, F16	聖約	10, F8, F16
疑い	36	尊敬	17
開拓者	42	断食	26
家族の一致	17, 20, 22	知恵の言葉	7, 26, 41
家族歴史	44	伝統	26
家庭のタベ	26	バプテスマ	
家庭訪問	2, 44		F6, F8, F10
悔い改め	10, 41, F10	フェローシップ	
従順	F8		2, 10, 30, 36, 42
什分の一	26, F13	扶助協会	25
祝福師の祝福	44	奉仕	10
情報源	44	ホームティーチング	
試練	10, 36		2, 5, 44
神権	6, 25, 30	召し	2, 26, 30, 44
信仰	40	模範	20
神殿	10, 26, 44	預言者	F2, F4



# 完全な希望の輝き

## 新会員の皆さんへ

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**皆**さんが最近バプテスマをお受けになったことを大変うれしく思い、心から歓迎いたします。皆さんは教会に加わり、素晴らしい一歩を踏み出されました。皆さんを援助するために、わたしたちにできることは何でもしたいと思っています。

皆さんはこの重要な時期にあって、次のような手紙を書いた女性のように感じておられるかもしれません。

「教会にたどり着くまでの道のりはユニークで、チャレンジに満ちたものでした。この1年間はわたしの人生でいちばん厳しいものでしたが、最も報いの多い1年でもありました。新会員としてわたしには、これからも毎日チャレンジが続くでしょう。」

手紙は続きます。「わたしたちは、求道者という立場から、教会員という立場に変わったときに、自分がまったく異なる世界、独自の伝統、文化、言葉を持つ世界に足を踏み入れたことに驚きます。わたしたちは、この新しい世界を旅するときに導きを求めることのできる人や場所がないということに気づきます。」<sup>1</sup>

新会員である皆さんには、心を躍らせるような経験をしていただきたいと願っています。救い主に対する皆さんの信仰は固く、回復さ

れた福音をもっと学びたいという意欲は純粹です。しかし、そうであっても新しく接する言葉や集会、教え、課題を負担に感じることもよくあることです。初めて出会う人々と人間関係を築いていく必要もあるでしょう。真の末日聖徒としての標準に従って生活していけるだろうかと、<sup>あかし</sup>危惧するかもしれません。そのような皆さんに次の明確なメッセージをお伝えします。「もちろん皆さんにもできます。あきらめないでください。」

### 道を歩む

ニーファイはこのように言っています。

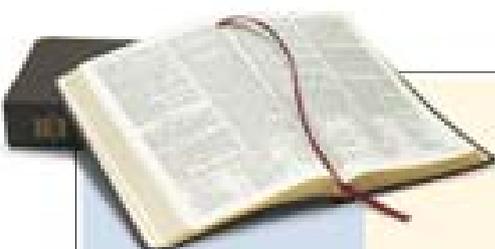
「あなたがたはその門から入っている。あなたがたは御父と御子の戒めに従ってこのように行っている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる<sup>あかし</sup>聖霊を受けている。……

さて、……わたしは尋ねたい。あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったからである。

したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければな



この業は  
主の聖なる業です。  
この教会は、  
神の教会であり、  
王国です。  
わたしの証を<sup>あかし</sup>  
お伝えするとともに、  
偉大な末日の奇跡、  
末日聖徒  
イエス・キリスト教会の  
一員として  
歩み続けてくださるよう  
願っています。



**わ** たしたちは  
 皆さんを必要と  
 しています。  
 皆さんが安らぎを得、  
 歓迎され、  
 受け入れられてい  
 ると  
 感じることが  
 できるように  
 全力を尽くします。  
 わたしたちは  
 皆さんのことを  
 愛しています。  
 そして、  
 主も皆さんを  
 愛しておられることを  
 知っています。  
 ともに成長し、  
 学ぶために、  
 手を取り合しましょう。

らない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。』(2ニーファイ 31 : 18 - 20)

教会に加わるのは重大なことです。改宗者は皆、キリストの名を受け、それに伴って、戒めを守るという約束をします。しかし、教会に来ることは、一つの冒険です。皆さんを迎える温かく力強い会員の助けと、愛と関心に満ちた支えがなければ、自分が踏み込んだ道に不安を感じ始めることでしょう。喜んで迎え、行くべき道に沿って導こうとする親しみのこもった手と歓迎の心がなければ、道をそれて行くかもしれないのです。わたしたちには、この業が真実であるという証を皆さんが強められるようにする責任があります。皆さんが教会に入り、やがて去って行くままにしておくわけにはいきません。皆さん一人一人は実に貴い存在です。皆さんは神の息子であり、娘だからです。

以前にもお話ししましたが、もう一度繰り返します。改宗者はだれでも3つのことを必要としています。

1. 常に頼ることができ、皆さんを支えてくれる教会の友人、皆さんの疑問に答え、問題を理解してくれる教会の友人。さらに皆さんには、信仰の大いなる旅路を支えるホームティーチャー、訪問教師、その他の教会員もついています。

2. 責任。この教会のいちばんの特徴は活動です。活動は、わたしたちを成長させてくれるプロセスです。主に対する信仰と愛は、腕の筋肉に似ています。使えば強くなります。しかし、使わなければ弱くなります。皆さんは責任を受けるに値する人たちです。

責任を果たすときに、何らかの間違いを犯すこともあるでしょう。それは問題ではありません。わたしたちはだれでも間違いを犯します。大切なのは、活動からもたらされる成長なのです。指導者は、皆さんが教会の活動に参画していく方法を見いだせるよう助けてくれます。新しい課題を引き受けてください。そして、主が責任をよく果たせるように助けてくださることを信じてください。落胆したときには助けを求めてください。しかし、あきらめてはいけません。努力し続けるなら、皆さんの力量が増していくことを実感できるでしょう。

3. いつも「神の善い言葉で養われ」る必要があります(モロナイ 6 : 4)。皆さんは、神権定員会や扶助協会、若い女性、若い男性、日曜学校、初等協会などの組織に属します。聖餐会せいさんに出席して聖餐を受け、バプテスマのときに交わした聖約を新たにしてください。毎日聖文を読んでください。主に近くあることができるよう、毎朝毎晩祈りをささげましょう。

ほかの教会にも善良な人々がたくさん集っ



左—写真/ロバート・ケシー、右—写真/ステイラ・バンダソン、写真はイメージです

ていることを、わたしたちのだれもが知っています。そこにはたくさんの良い教えがあります。皆さんは、家族や以前の宗教的な伝統のおかげで、多くの良い事柄を身に付け、たくさんの優れた習慣を培ってこられたことでしょう。使徒パウ



ロが語っているように、「すべてのものを識別して、良いものを守り」しましょう(1テサロニケ5：21)。良いものを身に付け、それらを守り、主の業のために活用してください。

### ともに喜ぶ

わたしたちは、イエス・キリストの福音にあって皆さんとともに喜びを享受しています。皆さんにはたくさんの祝福が準備されています。時に深い孤独感にさいなまれることもあるでしょう。落胆や恐れを感じることもあるでしょう。わたしたち教会員は、自分たちが思う以上にこの世のものとは異なっています。しかし、福音は決して恥に思うべきものではありません。誇りに思うべきものです。テモテに対してパウロはこう書いています。「あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1：8)

新しく改宗された皆さん、これからともに歩みましょう。わたしたちは皆さんを必要としています。皆さんの肩に手を回し、友達になりたいと思っています。皆さんが安らぎを得、歓迎され、受け入れられていると感ずることができるよう全力を尽くします。わたしたちは、皆さんのことを愛しています。そして、主も皆さんを愛しておられることを知っています。わたしたちの過ちや欠点を赦してください。ともに成長し、学ぶために、手を取り合ひましょう。

この業は主の聖なる業です。この教会は、神の教会であり、王国です。そして、聖なる森での示現は、ジョセフが述べたとおりに起きました。そこで起きたことがいかに重要か、わたし

は心の底からはっきりと理解しています。モルモン書は真実であり、主イエス・キリストについて証しています。神権は回復され、わたしたちの中にあります。天の使者を通して回復された神権の鍵は、わたしたちに永遠の祝福をもたらすために行使されています。皆さんやわたしの中にある証は、わたしたちのよりどころであり、人と分かち合うべきものです。この証と、わたしからの祝福、そして皆さんへの愛をお伝えします。そして、皆さんが偉大な末日の奇跡、末日聖徒イエス・キリスト教会の一員として歩み続けてくださるよう願っています。■

### 注

1. 「羊を見だし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 125

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. メッセージの中で述べられている、「新会員が必要としている3つのこと」を示すものを準備する。例えば、友達からのプレゼント、教会の手引き、聖典。

- 新会員にメッセージを伝える場合、これらのものが教会員として喜びを得るうえでどのように助けとなるかを話し合う。また、新会員としてどのような貢献ができるか理解できるように助ける。

- 会員歴の長い会員にメッセージを伝える場合、なぜ新会員にとって友達、責任、神の言葉で養うことがそれほど重要なかを話し合う。ワードや支部の新会員の必要を満たす助けをするように勧める。

2. 家族に、言葉や伝統、文化を知らない国に到着したところを想像してもらい、どのように感じると思うか尋ねる。最初に必要となるもの、または不自由に思うことは何だろうか。それらを新会員が経験するであろうことと比較する。ヒンクレイ大管長のメッセージの最後の項目を読み、「偉大な末日の奇跡の一員」となることの祝福について証を述べる。





スニル・マッセイ家族

### 福音は7人の子供を育てる助けとなりました

6年前、妻、幸子は癌で他界しました。周りの人からは、母親がいなければ子供が7人いるわたしの家族はばらばらになるのではないかと心配されました。この世の考えではそうかもしれません。でも福音に偉大な力があることを知っていたわたしたちは、家庭の夕べ、家族の祈り、聖文の学習を続けました。おかげで、家族のきずながとても深められました。

家庭に福音があるおかげで、子供たちは母

親がどこにいるのか知っていました。福音によって子供たちの人生は祝福されました。子供たちは自分たちが得た祝福を人に分かち合う必要があると感じ、一人また一人と伝道に出て行きました。——日本、与那嶺真弘

### 昇進を逃しても

わたしは現在、ある大きな国際企業の専務取締役です。この地位に就く前に、経営者との面接の中で、宗教上の理由で飲酒をしないことを伝え、こう言いました。「酒を飲まないことが職責を果たすうえで問題であるのなら、この地位をお引き受けすることはできません。」

当時、酒の付き合いは、会社の大切な慣習と見なされており、ストレス解消に役立つとさえ考えられていました。一般的に、出世するには酒の付き合いが欠かせないと信じられていたのです。経営者は、重役同士の社交にわたしが同行できないのを残念がっていましたが、わたしの信条に敬意を示し、採用してくれました。

入社以来、会社の慣習も変わり、酒を飲まな

### 態度を変える

救い主に従うことで、幸せを感じています。おかげで、わたしも家族も、周囲の人に対する態度が変わりました。すべての人に対して、以前よりも礼儀正しく丁寧に振る舞うようになりました。以前よりも社交的で、気さくに人と接するようになりました。——インド、スニル・マッセイ



与那嶺真弘家族



ダーラ・ローアー

### キリストのもとに来る

教会員となってから人生で最大の変化は、周囲の人への接し方が変わったことです。もう皮肉な態度は捨てました。前より親切で優しくなりました。物惜しみしなくなりました。だれに対しても、悪い感情を抱かなくなりました。ほんとうに単純なことです。キリストを覚えて生活することで、充実した人生を送り、人生を楽しむことができます。

福音に感謝しています。福音がわたしの霊を癒してくれます。キリストが今も生きておられることを知っています。——合衆国ユタ州、ダーラ・ローアー

いことが問題視されることはほとんどなくなりました。わたしには、イエス・キリストの価値観に従うならば、職業はもちろん、人生全般で成

功を取めることができるという堅固な証があります。——韓国、<sup>シン ヨンイン</sup> 慎 鏞仁・S



ジェフリー・バローズと妻アナリリ。娘とともに

### 人生の疑問に答えを見つけて

わたしたちは、人生の疑問に答えてくれる福音に感謝しています。わたしたちは2回の流産という苦しみを経験しました。わたしたちにとって、小さな娘を抱くことは、胸がはち切れそうほどの喜びです。神権によって、信仰が試された後に祝福を見ることができるという希望を頂いています。

義にかなった子供を育てるために教会が提供している資料は、わたしたちのような若い家族がうまくやっていくのにとっても役立っています。教会以外のどこで、このような導きを受けることができるでしょう。福音は、生と死、健康と病気、そして不変の愛について、永遠の視野を持たせてくれました。——グアテマラ、ジェフリー・バローズ、アナリリ・バローズ



ギャリー・グアニロと妻マリア、子供たち

### 永遠と一緒に

「ある日のこと、わたしは自分が運転するタクシーに、二人の宣教師を乗せました。」ペルーのギャリー・グアニロはそう言います。「宣教師たちはこう言いました。『家族が永遠になれるということを御存じですか。』その間に衝撃を受けました。預言者ジョセフ・スミスについても聞きました。帰宅してから、妻のマリアにもその話をして、宣教師を家に招くことにしました。彼らは最初のレッスンで『家族は永遠に』（『賛美歌』187番）を歌ってくれました。」

マリアはこう言っています。「わたしたちはバプテスマを受けてから、いろいろな面で成長しました。階段をどんどん上って行く感じです。あまり大切にないことは生活の中から少しずつ消えていきました。」

ギャリーはさらにこう言います。「わたしの望みは、神殿で妻と永遠の結婚をし、娘たちと結び固められることです。以前は、永遠の世界が存在するなんて、考えてもみなかったことです。」——ペルー、ギャリー・グアニロ、マリア・グアニロ

### 歌が勇気をくれました

1945年2月、人生を変える証を得ました。わたしは13歳でした。当時は第二次世界大戦中で、わたしたちは戦闘地域の真ん中にいました。ほかの4家族とともに命の危険にさらされていたのです。15人ほどの兵士がわたしたちにライフル銃を向け、殺そうとしました。この危険の中で、母は銃とわたしたち5人の子供の間に立って、言いました。「みんな手を取って。」それから母は「日は暮れ」（『賛美歌』92番）を歌いました。

あれから60年、今でも心の中にその賛美歌が聞こえてきます。あのととき、わたしは天の御父に祈りました。そして、もし生き長らえることができれば、御父の戒めと律法を守るという聖約を御父と交わしました。この約束は、この世的なことから離れ、イエス・キリストの福音に添った生活をする力を与えてくれました。——ドイツ、エーリッヒ・スタンク



エーリッヒ・スタンク



フランクリン・M・コンデウア

### ぼくは

#### ホームティーチャーです

ぼくは福音の教義を学ぶのが大好きです。賛美歌を歌うのも好きです。賛美歌からも教義が学べます。ぼくは伝道に出たいと思っています。今はホームティーチャーです。父と一緒に出かけ、主の助けによって、2家族が教会に戻って来ました。——ガーナ、フランクリン・M・コンデウア

# 新会員すべてに 会員歴の長い人



十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホランド

**成**人の男女そして子供たちは、バプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になると、驚きにあふれる旅に出発します。(比喩的な表現を使えば)巨大な山や緑豊かな峡谷、見渡す限りの美しい光景が広がっています。時には困難に出遭うこともあります。たとえそうであろうと、何としても歩んで行かなければなりません。天の御父のもとへ帰る旅だからです。幸いなことに主イエス・キリスト御自身が、わたしたちを導くと約束してくださっています。

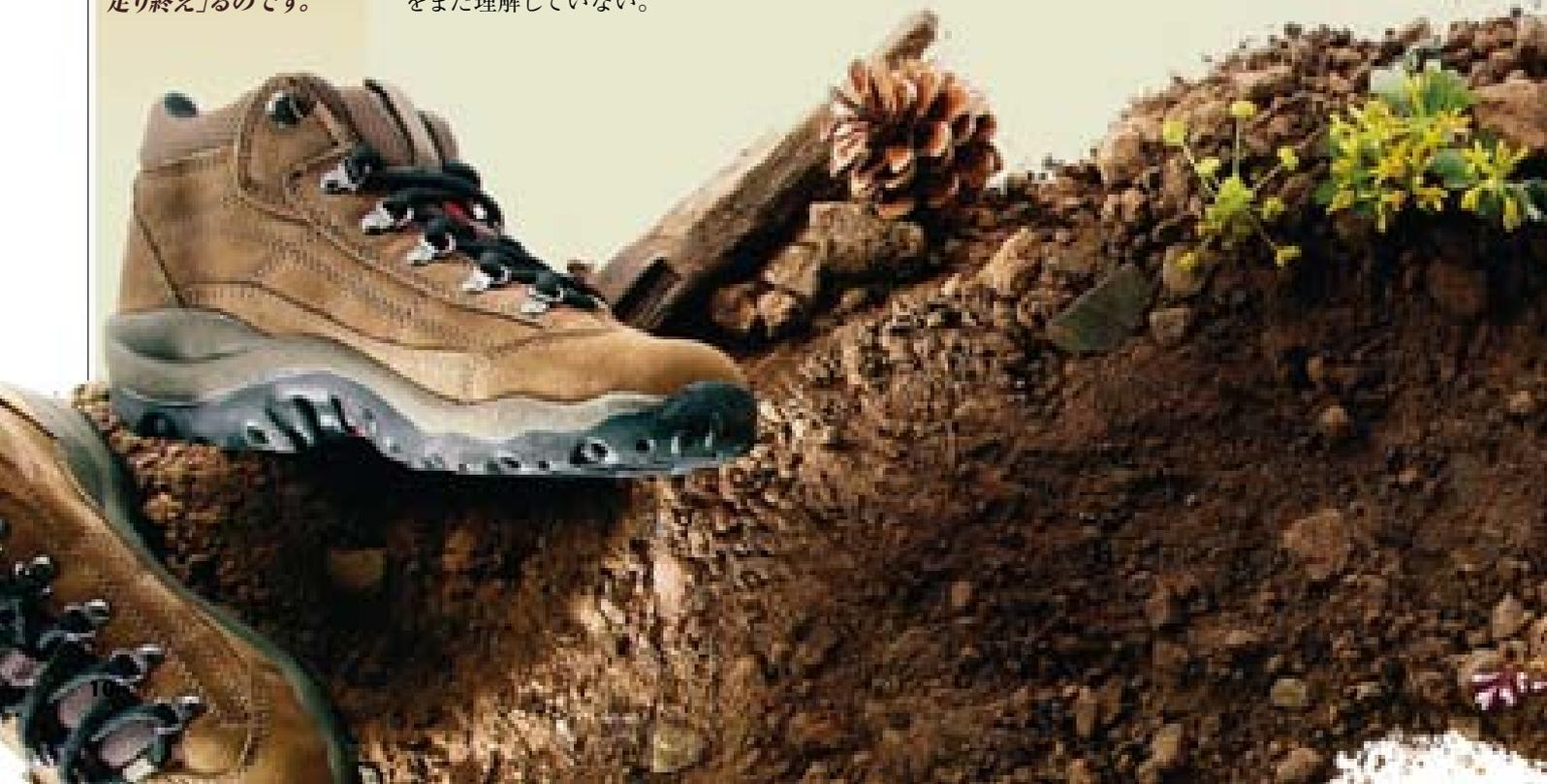
「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは幼い子供であり、父がどれほどの大なる祝福を御手の中に持っていて、あなたがたのために備えておられるかをまだ理解していない。

……元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」<sup>1</sup>

わたしたち教会員は皆その旅を続けています。一人一人、年齢や経験が異なるだけでなく、話す言語や文化、福音の理解の度合いも様々です。けれども、あなたがどのような環境に置かれているかにかかわらず、わたしたちはあなたを歓迎します。使徒パウロが述べたように、「そこであなたがたは、……聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」<sup>2</sup> ですから、わたしたちは助け合い、力を合わせていく必要があるのです。

あなたとまたすべての会員に知ってほしいことがあります。今後の人生で出会う出来事に

わたしたちは成功する必要があることを忘れてはなりません。この世の旅を漫然と終えるのではなく、「自分の行程を〔喜びをもって〕走り終え」るのです。



# 知ってほしいこと、 すべてに留意してほしいこと

備えて、霊的な強さを与える事柄です。わたしたちは成功する必要があることを忘れてはなりません。この世の旅を漫然と終えるのではなく、<sup>3</sup>「自分の行程を〔喜びをもって〕走り終え」るのです。<sup>4</sup> 日の栄えを受け継ぐという報いを得るには、最後まで忠実であり続けることがどうしても必要です。教会では月の栄えや星の栄えの王国を受け継ぐために必要な事柄を教えているわけではありません。わたしたちのあらゆる行いは、日の栄えの王国に至ることを目指しているのです。熱意をなくしたり、挫折したり、道半ばで放棄したりすることはできません。キリストはこう明言されました。

「さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受け

る者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としてしよう。

清くない者は、決して父の王国に入ることができない。したがって、信仰を持ち、罪をすべて悔い改め、最後まで忠実であることによって、わたしの血により衣を洗われた者のほかに、父の安息に入る者はいない。」<sup>5</sup>

## 聖約の道

わたしたちは自分でこの道を選びました。傍らで救い主が助けてくださる聖約の道です。バプテスマを最初の聖約として、永遠の命に向かうこの道を歩いていく間に、わたしたちは様々な聖約を交わします。そして、



**救**い主の  
この世の生涯は、  
人々への  
愛のこもった  
奉仕と献身に  
特徴づけられます。  
主の弟子たちも  
同じような生涯を  
送りました。

それらの聖約を守ることによって道にとどまることが出来ます。聖約を守ることによって受ける報いの一つは、主の光を受けることです。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」<sup>6</sup>とイエスは約束しておられます。

主の光の中であって霊的な生活を送ることにより、わたしたちは日増しにその光を見分ける力を増し加え、さらに多くの光を受けることができます。加えて、わたしたちは確認の儀式において聖霊の賜物たまものを受けています。まことの教会の会員に用意されている数ある賜物のうち、最初に与えられるものです。交わした聖約に従って歩むならば、常に必要なだけ十分に聖霊の促しを受けることができます。わたしたちの歩む道ではほとんど毎日のように問題という上り坂に直面します。けれどもその坂を乗り越えるための助けが文字どおり神から与えられます。神会の御三方、すなわち御父と御子と聖霊は、わたしたちが聖約を交わしてい

るので助けてくださるのです。

これらの聖約を思い起こすために、毎週聖餐せいさんを受けます。パンの祝福の祈りの中で、わたしたちは、「進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように」と祈ります。<sup>7</sup>

### 奉仕という神聖な義務

バプテスマのときに交わす聖約の一つとして、奉仕があります。救い主のこの世の生涯に見られた最大の特徴は、人の必要を満たすために愛を込めて奉仕し、献身的に取り組まれたことではないでしょうか。主の弟子たちも同じような生涯を送りました。モルモンモルモンの泉で信者の小さな群れは、バプテスマを受けて、互いに重荷を負い合い、慰めの要る者を慰めるといふ聖約を交わすよう促されたとき、手をたたいて喜びました。<sup>8</sup>



救い主は今の時代にこう勧告しておられます。「……神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、……最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受けることを教会員の前に証明し、また自分の罪の赦しを得るようにキリストの御霊を受けたことをその行いによってまことに明らかにする人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」<sup>9</sup>



し、さらには助けてくれる人々にも出会うからです。神殿の祝福を知っているわたしたちは、神殿に入るために準備しているあなたを、胸を躍らせながら、喜んで手伝いたいと思っています。

ワードや支部の会員がまず手を差し伸べてくれることでしょ。かつて自分たちが助けられたと同じようにあなたを助けてくれます。けれどもあなたを助けてくれるのは彼らだけではありません。ほかの会員の中からも友達を見つめるようにしてください。あなたも奉仕することを聖約しており、教会に入って間もないあなたも人に祝福をもたらすことができます。そのことを忘れないでください。

奉仕することはわたしたちにとって義務ですが、それ以上の意味があります。それは、キリストのような行いを示す機会なのです。主はわたしたちの重荷を負ってくださいました。わたしたちも互いの重荷を負うことによって、まことにキリストのような人物になるのです。教会における奉仕は、多少なりとも重荷となるかもしれません。しかし、それは「軽い」荷です。<sup>10</sup> なぜならわたしたちは皆、世の救い主と並んで立ち、力を合わせて荷を負うからです。

この世の人々からの支援よりもはるかに優れた、惜しみない支援を天から受けることができます。神は天使たちとともに、ほかのだれよりも、わたしたち一人一人が神聖な聖約を交わし、守れるよう助けたいと思っておられます。教義と聖約第76章の中で、わたしたちはこのように告げられています。

## 聖なる神殿

わたしたちの歩む聖約の道に、地上にあって永遠の行く末を表す象徴が置かれているとしたら、それは聖なる神殿すなわち主の宮です。わたしたちは神殿の中で、神と愛する人たちとともに、永遠に結ばれるために聖約を交わします。神殿から一步外に出ると、聖約については非常に限られたことしか話せません。けれども神殿の中では、聖霊は心の清い者に対して、聖約について何の制限も加えることなく証をさせていただきます。わたしはすべての成人会員に、主の宮を度々訪れ、御霊によって驚くべき確かな導きを受けるという祝福にあずかってほしいと願っています。

「主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。……

彼らの知恵は大なるものとなり、彼らの理解は天に達する。彼らの前で知者の知恵は減じ、賢者の理解も無に帰する。わたしは、わたしの御霊によって彼らに光を注ぎ、またわたしの力によってわたしのひそかな思い、すなわち、目が見えず、耳が聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったそれらの事柄を彼らに知らせるからである。」<sup>12</sup>

この約束は、教会のあらゆる人に、そしてあなたに与えられています。開拓者の受け継ぎを豊かに受けている人たちだけでなく、どこに住んでいるか、教会に入ってどれほど日が浅いかにかかわらず、この約束は、忠実で従順なすべての会員に向けられたものなのです。

新会員であるあなたにとって、神殿に参入することは遠い先の目標であり、実現できそうにもないと思うかもしれませんが、実はそう難しいことはありません。神殿に入る準備を一度に全部する必要はないのです。信仰に基づく一つ一つの行い、悔い改めに向けての一つ一つの歩み、戒めを守ることで静かに積み重ねていく一つ一つの勝利が、ひと月ごとに、1週間、1日、1時間ごとに、わたしたちを神殿に近づけてくれるのです。主は言われました。「善を行うことに疲れ果ててはならない。」「小さなことから大なることが生じる」からです。<sup>11</sup>

彼らの知恵は大なるものとなり、彼らの理解は天に達する。彼らの前で知者の知恵は減じ、賢者の理解も無に帰する。わたしは、わたしの御霊によって彼らに光を注ぎ、またわたしの力によってわたしのひそかな思い、すなわち、目が見えず、耳が聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったそれらの事柄を彼らに知らせるからである。」<sup>12</sup>

この約束は、教会のあらゆる人に、そしてあなたに与えられています。開拓者の受け継ぎを豊かに受けている人たちだけでなく、どこに住んでいるか、教会に入ってどれほど日が浅いかにかかわらず、この約束は、忠実で従順なすべての会員に向けられたものなのです。

## 過去と決別する

あなたは贖い主に行く手を照らされ、天使から助けが得られるこの道に入ったのですから、もう過去の暗闇や悔恨を振り返らないようにしてください。<sup>13</sup> 心から悔い改めるならば、昔の暗闇から遠ざかることができます。わたしが知っている中で、最も励まされる聖句はこう告げています。「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、……力強く進まなければならない。」<sup>14</sup> ですから、力強

神殿への道は、最初に受けた印象よりもはるかに易しいものとなるでしょう。その道を歩んでいるときに喜びを見いだ

く進んでください。過去は過去の中に葬りましょう。第12代大管長のスペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこう教えました。「救い主は、手に鋤をかけたなら後ろを見ないようにと言われました。ここで言おうとされていることは、謙遜な心と主への深く忠実な信仰をもって前進しなさい、ということです。主を信頼し、世の習いや世の誉れのただ中であっても断固として道からそれずに前進するのです。」<sup>15</sup> さらに、わたしたちを道からそれさせるものとして、世の中での過去の経験を付け加えることができるでしょう。

たとえ過去へ引き戻そうとする力が強くても、驚くことはありません。それは昔からの友達や以前の習慣などかもしれません。たばこ、アルコール、薬物、ポルノグラフィ、ギャンブル、性的な罪、不正直など、あなたの行動をすっかり支配してきたかもしれないしつこい習慣です。これらはかつて、聖霊からの影響を受ける妨げとなっていました。今その習慣に戻ってしまうと、もっと大きな傷を負うことになります。しかし、あなたが交わした聖約の持つ力は、誘惑の力をねじ伏せることができます。過去の罪に心を悩ませるあまり、悔い改めて過去の罪を捨てるという決意を鈍らせてはなりません。忘れないでください。神は「[あなた]をあだの手から救い、敵の力からあがなわれ[る]」<sup>16</sup>と約束しておられます。

過去の常用癖や問題を、自分の力ではとうてい克服できないと感じているかもしれません。しかしあなたは問題に一人で立ち向かう必要はないのです。神はすべての会員に、神権指導者を与えておられます。神権指導者は、悔い改めて新たな力を見いだせるように支援する鍵、つまり権能を持っています。彼らに助けを求めてください。悔い改めと霊的な問題について相談するために、神権指導者のもとへ行ってください。普通の場合はビショップか支部会長です。そうすれば彼らは、最終的に救い主から与えられる癒しの道へと導いてくれるでしょう。告白を必要としない事柄については、ほかの人から助けを受けることができます。友達、愛する人、ホームティーチャー、訪問教師、信頼できる専門家、強い証を持つ会員などが助けてくれます。あなたがどのような問題を抱えているかによって、だれに助けを求めるかを決めてください。わたしたちは一緒にこの旅を歩んでいること、「もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体

が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ」<sup>17</sup>ことをもう一度強調しておきます。(訳注——この聖句の「肢体」に当たる英語は“member”で「会員」の意もある。)

弱さを克服するためにあらん限りの霊的な力を使い、救い主と神権指導者の助けを義にかなって求めるときに、聖霊はあなたがバプテスマを受けたときに持った霊的な確信を再び感じられるように助けてください。あなたが選んだ道は天の御父がこの世と永遠にわたってあなたに望んでおられる道である、という知識を改めて心に満たしてください。

聖霊はほんとうに自分に語られるのだろうかと思いませんか。実は聖霊はこれまで何度も語りかけておられます。わたしたちがその導きに気づくことに慣れていないのかもしれませんが、すべての教会員は聖霊の賜物を持っていて、たとえ意識して求めなくても、この賜物のおかげで多くの導きと助けを受けているのです。神はわたしたちの御父です。親というものは(特に)道を

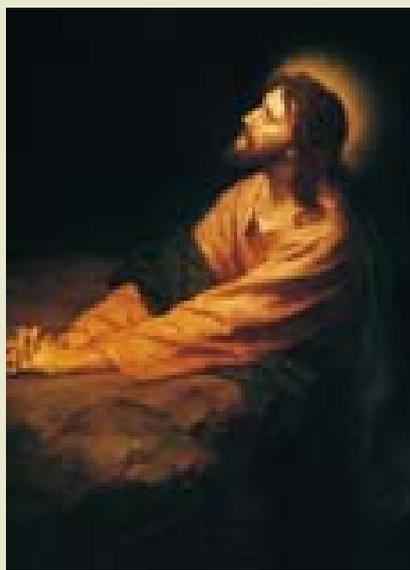
踏み外した子供を含め、すべての子供たちを義にかなって助けるためにあらゆることをします。聖霊を通してもたらされる天からの助けは、表面的な感覚に訴えかける経験よりも、印象や感情を通して与えられることが多いのです。

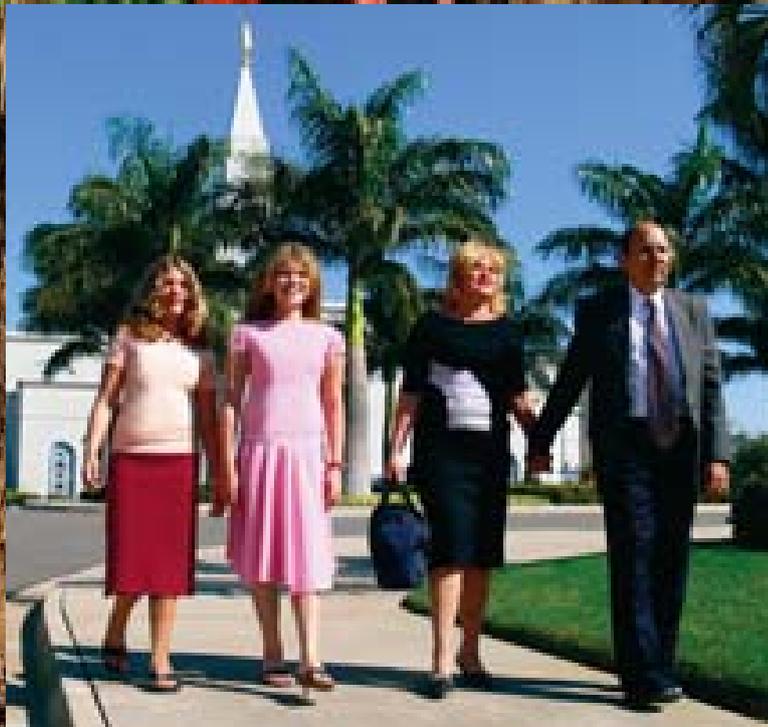
十二使徒定員会のボイド・K・バッカー会長代理はそれをこのように説明しています。「聖霊は、肉体の五感よりも心を通じて霊に語りかけます。この導きは、思いや感情として、あるいは印象や促しを通してもたらされます。言葉で表しにくいこともあります。聖文が教えているように、霊的な交わりの言葉は耳で聞くよりも心で『感

じ』、肉眼よりも霊の目で見るとです。」<sup>18</sup>

### 毎日の生活で勝利を収める

苦難という上り坂が立ちはだかるだけでなく、時には危険をはらんでいる旅の中で、わたしたちは毎日のように試練に遭遇します。注意していないと、自分の苦しみだけに心を奪われて、自分の人生には不公平なほど試練があると考えたり、





## 神 殿は 日の栄えを 目指す

わたしたちにとって、  
この世の象徴です。  
信仰と従順に基づく  
一つ一つの行いが  
わたしたちを  
その祝福に  
近づけてくれるのです。

ほかの人は少ししか試練を受けていないと感じたりするかもしれません。

しかし、人生の試練はわたしたちにとって最もよい結果を生じるように計画されており、すべての人は死すべき世での経験に最も合った苦難に出遭うのです。神は憐れみ深く公正な御方であり、あらゆる定めは公平であることがいづれ分かります。試練はわたしたちに必要であって、試練を克服することによって、ほかの方法では得られない祝福にあずかる、ということをはっきりと知ることができます。

この世にいる間、道に横たわる石にばかり目を向けていると、美しい花や冷たい小川のせせらぎに気づかずに通り過ぎてしまいます。それらの花や小川は、わたしたちの旅を計画された、愛にあふれる御父が用意してくださったものなのです。肉と霊の目が神の慈しみに向けられているとき、悲しみでなく喜びが日ごとに訪れます。福音の喜びは次の世へ行かなければ得られないようなものではありません。わたしたちには、今まさにこのときに喜びを得る特権があります。問題に気を取られて、あなたを待っている祝福を見失ってはなりません。問題よりも祝福の方が必ず多いのです。たとえそうでないと思える日があるとしてもです。イエスは言われました。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」<sup>19</sup> この祝福を今受けましょう。祝福はあなたのものであり、これからも常にあなたのものです。

この祝福について幾つかまとめておきましょう。ほかにもたくさん祝福があります。

**真理の知識** 確かにわたしたちは、驚くような出来事にあふれ、憶測が行き交い、成り行き任せの世に生きています。しかしながら、定められた道に従って歩んでさえいれば、御父がどのような御方であり、自分が何者であり、最終的にどこへ行こうとしているのかをはっきりと知ることができます。わたしたちはあらゆる高等教育の中で最高の教育を受けることができます。それは、忠実な者たちに天から下される光に、霊と思いを向けるときに得られる、霊と俗世に関する知識です。

**日常生活の平安** わたしたちは毎日の生活

でどのような試練や障害に出遭おうとも、安らかにまた希望と目的をもって歩むことができます。これらの祝福を受けられるのは、わたしたちの力の源、すなわち「すべての下に身を落とし」<sup>20</sup>、あらゆる試練に勝利を収められた御方のおかげなのです。この御方を中心として信仰を築くとき、主の力を受けます。そして、「この世において平和を」<sup>21</sup>得るといふ何にも勝る報いにあずかることができます。

**美德が持つ力、高潔であることから生じる自信** 世界は道徳の標準を見失っているようです。このため、世が正しいとする誤った概念を受け入れ、あるいはその時点での軽薄な流行を追い求めています。しかしわたしたちには堅固な岩があり<sup>22</sup>、その上に基を築き上げ、しっかりとつかまっていることができます。そして、道徳的に正しい判断を下す絶対的なよりどころとすることができます。わたしたちは「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい」と教えられています。そうすれば、聖霊は常にわたしたちの伴<sup>ほんりよ</sup>となられます。思いを聖霊の導きに集中し、導きのままに生活するならば、「神の前において[わたしたち]の自信は増し」ていくでしょう。<sup>23</sup>

**善良な人々との交わり** 教会員にとって最大の力と喜びの一つは、多くの共通点を持つ善良な男女や新しい友達との交わりです。教会は一つの共同体です。つまり、信者の集まりであり、忠実であろうと努力する人々の社会、聖徒の集まりです。同じことを望みとしている人々と交わることで、旅を続ける力を得、道中の喜びを見つめるのです。箴言の著者は「友はいずれの時にも愛する」<sup>24</sup>と言っています。このため、わたしたちの最愛の友はその多くが教会員なのです。

一緒に歩みましょう。一緒にとどまってください。あなたの参加とあなたの力が必要なのです。聖約を基として「確固とした揺るぎない不変の決意」を抱く人々の交わりに、あなたを歓迎します。わたしたちはあなたの友になり兄弟姉妹となることを約束します。「神の恵みにより、愛のきずなをもって……また感謝をもって、罪がなく、神のすべての戒めに従ってとこしえにいつまでも歩む」ことを約束します。<sup>25</sup>



## 確認の儀式を通して すべての会員に 授けられる

聖霊の賜物は、  
御父が子らのために  
用意された道において  
助けてくれる  
多くの賜物の一つです。

教会へようこそ。  
祝福を手にしてください。  
日の栄えを目指す旅に歓迎します。勇気と希望を持ちましょう。あなたは天から、そして地上で助けを受けることができます。主は、(あなたを教えた宣教師を含めて)宣教師に語られたように、わたしたちすべてにこう約束しておられます。「わたしはあ

なたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」<sup>26</sup>

この旅を続ける中で前進しているかどうかを示す最も大切な指標は、今道のどこにいるかではなく、どこに向かっているかです。この世における時の終わりを迎えるとき、完成への段階をまだ登り詰めていないかもしれません。だれも登り詰める人はいないでしょう。けれども、愛し、奉仕し、犠牲を払い、最後まで忠実であるなら、この栄光あふれる言葉を耳にすることでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ。」<sup>27</sup> そうして、先に行った愛する人たち、そして天使たちとともに、言葉に表せないほど大いなる栄光を受けて旅を続けることでしょう。「道であり、真理であり、命である」御方の教会に心から歓迎します。<sup>28</sup> ■

### 注

1. 教義と聖約78：17-18
2. エペソ2：19
3. 2テモテ4：7参照
4. 使徒20：24
5. 3ニーファイ27：16, 19
6. ヨハネ8：12
7. 教義と聖約20：77
8. モーサヤ18：8-11参照
9. 教義と聖約20：37, 強調付加
10. マタイ11：30. 28-29節も参照
11. 教義と聖約64：33
12. 教義と聖約76：5, 9-10
13. ルカ9：62参照
14. 2ニーファイ31：20, 強調付加
15. 「善をなすにうむことなけれ」『聖徒の道』1980年9月号, 125
16. 詩篇106：10
17. 1コリント12：26
18. 「変化する世における啓示」『聖徒の道』1990年1月号, 14参照。1ニーファイ17：45も参照
19. ヨハネ10：10
20. 教義と聖約122：8
21. 教義と聖約59：23
22. ヒラマン5：12；3ニーファイ11：39-40参照
23. 教義と聖約121：45. 46節も参照
24. 箴言17：17
25. 教義と聖約88：133
26. 教義と聖約84：88
27. マタイ25：21, 23
28. ヨハネ14：6

# 宗教は違っても 家族を愛する

わたしの家族は皆そろって教会員というわけではありませんが、わたしはこの原則（特に尊敬、愛、祈り）が、家族にいかにか祝福をもたらすかを見てきました。

七十人  
ウォルター・F・ゴンサレス

**多**くの末日聖徒、特に新しい会員は、ほかの宗教を信じている家族とよい関係を保つにはどうしたら良いかという重大な問題に直面します。

救い主でさえ信仰の違う家族がいました。聖書にはこう書いてあります。「こう言ったのは、兄弟たちもイエスを信じていなかったからである。」(ヨハネ7:5)

家族が末日聖徒イエス・キリスト教会に対して誤った考えを持つことは、珍しいことではありません。そのようなときにはお互いの間に葛藤かつとうが生まれるものです。愛を込めてはっきりとコミュニケーションすることで、張り詰めた気持ちをずいぶんとほぐすことができます。わたしは10代のときに教会に入りました。バプテスマを受けて間もないころ、カトリック教徒の祖母が、ある誤解をしていたことを知りました。祖

母は、わたしが新しい宗教に改宗したので、自分のことをもう身内とは思ってくれないのだと思い込んでいたのです。この誤解を解くことができたときは、ほんとうにほっとしました。

福音の教えは、個人が何を信じているかにかかわらず、家族全員を力づけるものです。わたしたちが身をもってそのことを示すなら、家族関係を強めることができます。「家族——世界への宣言」にはそうした教えが数多く盛り込まれています。こうあります。「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとり



**家**族が  
信じている  
別の宗教に  
敬意を払うならば、  
家族はもっと寛容になり、  
理解を示してくれる  
ようになります。

確立され、維持されます。』<sup>1</sup>

こうした原則にのっとって生活する家族は、その実を得ることができるでしょう。わたしの家族は皆そろって教会員というわけではありませんが、わたしはこの原則（特に尊敬、愛、祈り）が、家族にいかにか祝福をもたらすかを見ってきました。

### 尊 敬

わたしが教会に改宗した直後は、我が家の空気は張り詰め、誤解もありましたが、わたしも家族も、互いに寛大に接し、尊重し合うようになりました。例えば、末日聖徒になった途端に、

わたしの日曜日の過ごし方は一変しました。サッカーをする代わりに教会に行きました。日曜日の過ごし方が変わった理由を知ると、家族は理解を示し尊重してくれました。わたしの方も、家族の伝統を尊重しました。例えば、わたしの家族は皆で集まって祈ってはいませんが、そのことで両親を批判したりしませんでした。我が家では、互いを尊重する精神を、今でもとても大切にしています。

モルモン書は寛容と尊敬の原則を強調しています。アルマ書第1章21節にはこのように書かれています。「さて、教会の人々の中には厳しい律法があり、教会に属している人は、教会に属していない人を苦しめてはならない、また互いに苦しめ合ってはならないとされていた。」

アルマは次に挙げる原則を大きな町ゼラヘムラで教えました。アルマは尋ねました。

「あなたがたの中に自分の兄弟をあざけている人、あるいは兄弟に迫害を加えている人がいるか。」（アルマ5：30）それからアルマは、そのような人は悔い改めが必要であると言いました。「このような人は、用意ができていないので災いである。悔い改めなければならない時が近づい





**わ** たしたちは家族に  
愛を示すことができます。  
家族の良い部分を見るのです。  
自分の信仰を曲げてまで  
妥協する必要はありませんが、  
家族の信仰を尊重しなければなりません。

ている。悔い改めなければ救われないう。』(アルマ5：31) 家族の一員が信じている異なる信仰を尊重することは大切です。

## 愛

愛の原則もまた家族が良い関係を築くために大変重要です。モルモン書は教えています。「慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。」(モロナイ7：46)

わたしたちは家族にキリストのような慈愛を示すことができます。家族の良い部分を見るのです。わたしは両親に深く感謝し、二人を深く愛しています。両親は教会の会員ではありませんが、模範と訓戒を通してわたしに義にかなった原則を教えてくださいました。そのおかげでわたしは宣教師のメッセージを聞いたときに、それが真実であると分かったのです。その事実を認識するようになってからは、いっそう深く両親を愛するようになりました。

これらの原則を、家庭の中で愛をもって実践するとき、家族一人一人の生活が祝福されます。これらの原則を、家族がすでに持っている美德に加えましょう。福音の教えと家族の信仰が相反する場合は、自分の信仰を曲げてまで妥協する必要はありませんが、家族の信仰を尊

重しなければなりません。意見が合わないことがあっても、家族と論争するのは避けましょう。「柔らかない答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす」ことを思い出しましょう(箴言15：1)。怒りは人間関係を損なうだけですが、愛と親切は心を和らげることができます(3ニーファイ11：29参照)。

## 祈り

時には、愛する家族のためにできることといえば唯一祈ることだけ、という場合もあります。家族もちょうど同じように、皆さんのために祈っているかもしれません。わたしたちは愛する人たちが教会員になることを常に願ひ求めることでしょう。信仰のない息子のために祈った父アルマに共感することができます。一人の天使が息子アルマに現れたとき、その天の使者は息子アルマに、彼の父親が「あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもって」祈ったのだと説明しました(モーサヤ27：14)。祈りは家族の生活を祝福する力強い手段です。時には、祈りは、わたしたちにできる唯一のことなのです。

愛、尊敬、祈りという原則は、家族に恵みをもたらす、福音の数ある原則のほんの一部にすぎません。福音の教えは天の御父の子供たちすべてを祝福します。イエス・キリスト教会の会員であるかないかは関係ありません。なぜなら御父はすべての人を深く愛しておられるからです。■

## 注

1. 「リアホナ」2004年10月号、49。大管長会と十二使徒定員会によって書かれた。預言者たちによるこの宣言は、教会と世界に、家族に関する教義を伝えるものである。この宣言がゴードン・B・ヒンクレー大管長により初めて公の場で読み上げられたのは、1995年9月の中央扶助協会集会のときであった。

**祈り**は  
家族の生活を  
祝福する  
力強い手段です。



# 正しい選択 をする価値

ベロニカ・ガルシア・ワーカー

わたしは16歳のときに教会に入りました。両親は許可してくれたものの、一緒に教会に入ったりはしませんでした。バプテスマ当日、母は言いました。「もし望むなら、まだやめられるわよ。」しかし、わたしはやめたくはありませんでした。教会に入り、新しい人生を始めたかったのです。わたしは福音が真実であることを知っていました。

家族と一緒に教会に行けないわたしは、日曜日に寂しく感じるがよくありました。けれども、ワードの人たちがわたしを教会に連れて行き、そばに座ってくれたのが助けになりました。また、召しを受けたことも助けになりました。3歳の子供たちを教えるよう召されたとき、以前にも増して、ワードの家族の一員になれたと感じました。

バプテスマを受けたからといって、家族のきずなにひびが入るようにはたくありませんでした。しかし、家での生活は、思いどおりにならないこともありました。日曜日に家族でたくさんのお家事をすることになっていたのも、手伝わないでいると小言を言われました。怠けていると言うのです。わたしは「安息日を尊ぼうとしているだけよ」と答えました。また、家族は日曜日に外食するのが好きでしたが、わたしはもう行きたくありませんでした。「家族の仲を引き裂こうとしている」とまで言われました。でも、戒めに従って生活しようとしていただけなのです。

あきらめないように支えてくれたのは、主の御霊<sup>みたま</sup>でした。わたしは生活の中で、ほんとうによく御霊を感じていました。証<sup>あかし</sup>を述べるときも、聖文を読むときも、祈るときも、御霊を感じました。これはすべて教会で教師から学んだことでした。わたしは熱心に教師の語ることに耳を傾け、生活を改善するすべを学ぼうとしていました。

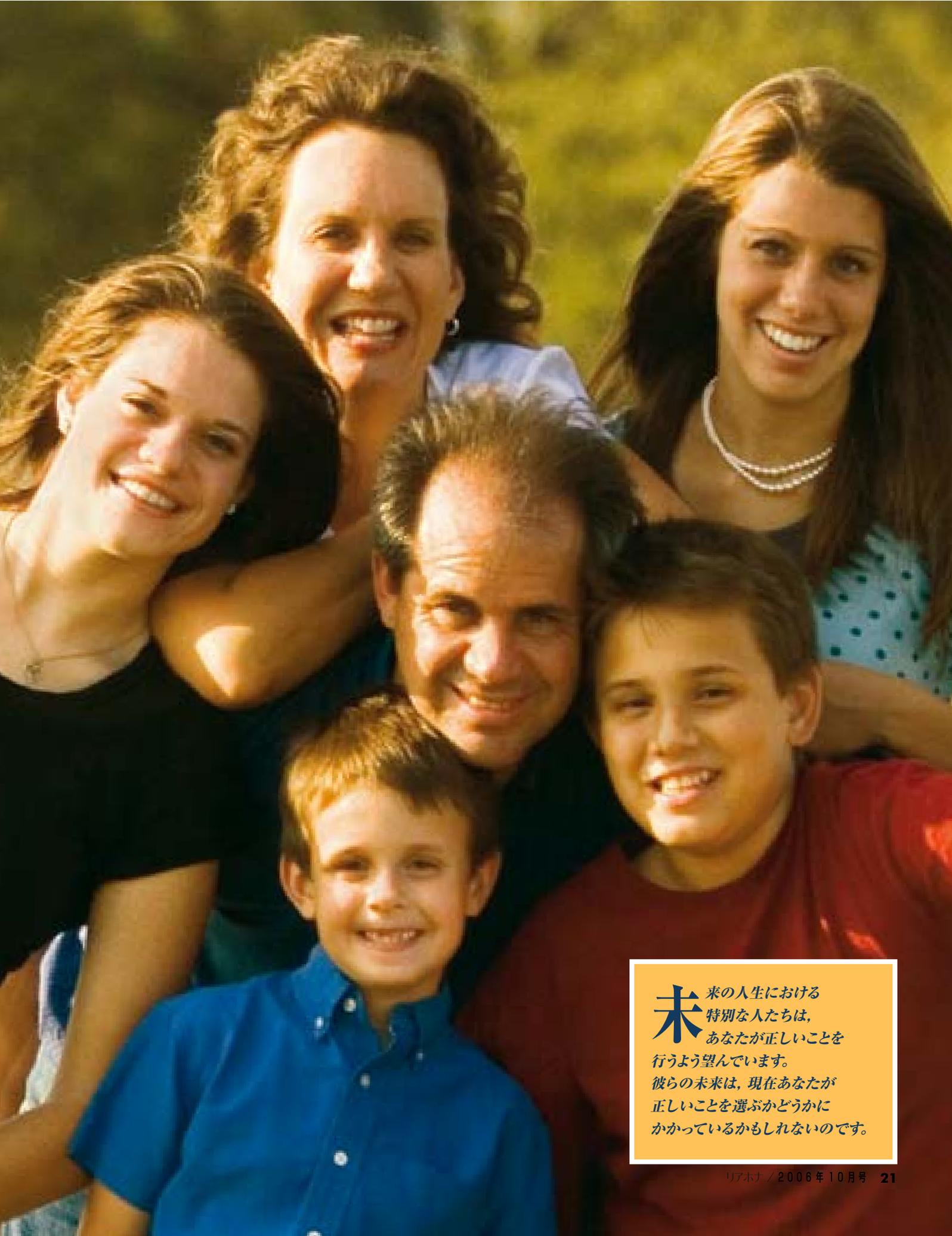
しかし、新しく学ぶべきことがあまりにも多かったため、教会で自分が浮いているように感じるがよくありました。例えば、すでに持っていた短いスカートをやめようと、丈の長いスカートを何枚か新しく買ったときのことです。それを着て教会に行ったのですが、どれもまだ短すぎて教会の標準には

合わないことを知りました。また、友達が使う教会の略語が分かりませんでした。でも、どう思われるか心配なのと恥ずかしいのとで、どういう意味なのか尋ねられなかったことが何度もあります。

そんなとき助けとなったのは、10代の青少年たちでした。友達になってくれて、わたしが溶け込めるように、時間を割いて助けてくれました。彼らは新会員を助ける自然な方法を身に付けているかのようでした。もう一つ助けになったことがあります。それはわたしの家族の次の世での様子を思い浮かべることでした。わたしは、福音が真実であると知っているのに福音にそぐわないことをして、家族を失望させたくない、と思いました。10代のころはさすがに大変でしたが、将来のことや家族への責任について考えるように努力しました。もしわたしが福音に従った生活をしなかったなら、家族はどのように福音を受け入れる機会にあずかれるでしょうか。

時は流れ、わたしは結婚し、現在10代の子供たちがいます。彼らは活発に教会に集い、わたしが経験から学ばなければならなかったような、教会にかかわる知識面での苦労はありません。また、教会によく溶け込み、それぞれクラス会長会で奉仕しています。10代のころのわたしは、父や母にとって模範となるよう努力していました。残念ながら、両親は教会には加わりませんでした。しかし、そのときには気づかなかったのですが、後になって気づいたことがあります。後に出会う10代の子供たち、すなわち命よりも大切な、わたしの子供たちにとって、あのときわたしが正しいことを選ぶかどうか非常に重要であったということです。

今日あなたが選ぶことは、現在あなたの生活にかかわっている人たちに影響を及ぼすことでしょう。しかし、未来の人生における特別な人たちもまた、あなたが正しいことを行うよう望んでいます。彼らの未来は、現在あなたが正しいことを選ぶかどうかにかかっているかもしれないのです。正しい選択をしたために、どんなに気まずい思いをしたとしても、いつか、それだけの価値があったことが分かるでしょう。■



**未** 来の人生における  
特別な人たちは、  
あなたが正しいことを  
行うよう望んでいます。  
彼らの未来は、現在あなたが  
正しいことを選ぶかどうかにかかっているかもしれないのです。

# 質疑応答

「わたしが教会に入ったために、家族や友達の中に、わたしが下した決断に疑問を抱く人がいます。どのように答えればよいのでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**教**会の会員になるのは、友達や家族から批判されたり、疑われたりすることがなかったとしても、難しいものです。けれども、バプテスマと確認を受けることは正しい決断であり、教会員になることはすばらしい祝福です。疑念を抱く人たちには、単にまだ、そのことが理解できていないだけです。それでもあなたが手を貸し、根気よく、良い模範を示すならば、家族や友人も理解するようになるでしょう。たとえ教会に入ったことに賛成でなくても、少なくとも尊重はしてくれるようになるでしょう。

家族や友達の質問に答える準備をすると、自分の役に立ちます。自分がなぜ教会の会員になったのかを考える良い機会になります。祈りの答えや霊的な経験を、いろいろと思い出すでしょう。あなたが教会に入ったことに疑問を抱いている人たちに、証を伝え、改宗に至るまでのいきさつを話すなら、あなたも、家族や友人も、ともに御霊を感じることでしょ

う。家族や友達が教会についてよく知らないために疑問を抱いているのだとしたら、主が御業を行われていた時代に教えられたことを話してみてください。「きてごらんなさい。そうし

教会に加わることは、正しい決断です。家族や友達が真理を理解するように、手を貸すことができます。しかし、時間がかかることもあるでしょう。

証や改宗までのいきさつを話してください。聞く人にとってはためになり、あなたにとっては、霊的な経験を振り返るよい機会となるでしょう。

家族や友達を教会の集会や活動に誘い、会員たちに紹介してください。

聖霊を感じられるような生活を続けてください。この試練のときであっても安らぎと導きを受けられるでしょう。

たらわかるだろう。」(ヨハネ1:39) 教会やミューチャル、家庭の夕べ、そのほかの活動に誘ってください。教会がどんなところで、何をしているのかを見に行くなら、歓迎されることを伝えてください。このような活動を通して、友人や家族は教会員に会い、聖霊によってもたらされる平安を感じるでしょう。それによって、なぜあなたが教会員になったのかを、理解してくれるようになるでしょう。御霊を感じ、疑問が解決すると、彼らは後になって教会に加わるかもしれません。それには、あなたの証と模範が助けとなるでしょう。

あなたは教会に加わったために、友達を失ったかもしれません。もしそうだとした場合、教会員になったことで新しい友達がたくさんできたことを、忘れないでください。福音における兄弟、姉妹と知り合いになってください。この試練を克服するうえで、手を貸してくれるでしょう。同じような経験をしたことのある人がきついているでしょう。

教会に入るという決断に向けられる疑問や心配に対処するのは、あなた一人の責任ではありません。専任宣教師や、支えてくれる友達や家族、ホームティーチャー、ワードや支部の



会員から助けが得られます。

今月号17ページにあるウォルター・F・ゴンサレス長老の記事にも、このような状況に対応する良い方法が書かれています。長老の言葉によると、自分と異なる信仰を持つ人に対しては、時には、祈ることしかできない場合があります。その人の信仰に敬意を払い、「互いに見解が違うことを認め合い」優しく接してください。

いちばん大切なのは、毎日祈り、聖文を研究し、また毎週教会の集会やミュチュアルに出席して、主に近くあることです。これらのことを通して慰

めや力が得られることが分ければ、今回のような試練も、それほど難しいものとは思わなくなるでしょう。聖霊は、あなたが何を言い、何をすればよいか分かるように、導きを与えてくださいます。

主は、あなたがこの試練を受けていることを御存じです。そしてまた、あなたがこの経験を乗り越えられることも御存じです。主にはあなたを導くことができになります。それを通してあなたは、自分の決断に疑問を投げかける人に、力を貸すことができるでしょう。

## 読者からの提案



もしわたしだったら、このように言うでしょう。「わたしも最初はいろいろ疑っていましたが、でも、悪いうわさは事実ではなくて、良いうわさの方はほんとうだと分かりました。宣教師と話せば話すほど、この宗教が分かってきました。宣教師は、わたしの質問に全部答えてくれました。教会員になると決めて、とてもよかったと思っています。」

アメリカ、テキサス州  
コーディー・D、14歳



バプテスマを受けたときや、聖文を読んだり祈ったりしたときに、どのように感じたかを、そしてその気持ちを今も感じていることを、説明してください。生活がどれほど良い方向に変化したかを、行いで示すようにしてください。あなたの影響を受けて、いつの日か彼らが教会に入るかもしれない。ですから、弱気にならないでください。

オーストラリア、ニューサウスウェールズ州  
ジャスミン・S、16歳



実は、最初わたしは、疑問を抱いた方でした。母と兄が宣教師に会ったときには、わたしは10代で、あまり身を入れて聞いていませんでした。しかし、母と兄が教会に入ると、二人が学んだ事柄と、わたしが子供のときから教えられてきたことが同じであると分かりました。軍隊に入隊すると、わたしは宣教師を探し出し、集会に出席し、研究し、祈りました。そして、家に帰ってからバプテスマを受けました。わたしは福音によって幸せになりました。御霊は福音が真実であると教えてくれました。

アメリカ、ジョージア州  
ニコール・V、20歳



わたしは友達に、教会へ行くと聖霊の力を感じられるので教会に入ると、伝えていきます。聖霊の力を通して霊的に成長できるだけでなく、学校でも毎日の生活でも導きがあります。宣教師のおかげで、家族で教会員になれたことを感謝しています。イエス・キリストの福音を土台として人生を築くことが、人生でいちばんの幸せなのだと分かりました。

台湾、ファン・J、17歳



自分が決めたことに対して、周りの人から疑問を投げかけられるのはつらいことです。しかし、人があなたに疑問を持つことと、あなた自身が自分の証に疑問を持つことは違います。

証をしっかりとって答えてください。それが、あなたにできる最善策です。相手の反応がよくないこともあるでしょうが、真理はいつも勝利を収めます。

アメリカ、アラバマ州  
マイケル・W、17歳



**新** 会員がこの世から抜け出て神の王国に入るとき、多くのものを後にしています。彼らは、しばしば友人や家族さえも後にし、教会の標準と相いれない社会的な関係や生活様式をあきらめなければなりません。

バプテスマの後、新会員は研究、祈り、会員の模範、養いを通して、神の王国で聖徒たちと同じ国籍の者となる方法を学ぶ必要があります。」

#### 十二使徒定員会

ロバート・R・ヘイルズ

「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」  
『聖徒の道』1997年7月号、94参照



わたしなら、バプテスマを受けた理由をこう話すでしょう。この教会が真実であり、わたしが天の御父とイエス・キリストに愛されていて、御二方の望みはわたしがみもとに戻るこ

とだと分かったからだ。永遠の命を信じ、いつか自分の家族が永遠に一緒になれることを信じています。バプテスマは、天の御父や家族と再び一緒に暮らすために歩む道の、最初的一步です。わたしはこのことについて尋ね、真実であるという答えを受け取ることができたので安心し、幸せを感じています。チリ、イグナシオ・R、17歳



過剰に反応しないよう気をつけてください。よく話し合い、できるときはいつでもその場の雰囲気や和らげて、衝突を治めてください。愛を伝え、安心させてあげてください。

あなたの信仰とは異なる部分があるかもしれませんが、しかし、意見の相違があるからといって、議論をする必要はありません。結局、あなたの行いによって、あなたの決断が正しかったかどうか判断されるでしょう。あなたが、良い方向へ変わっていけば、彼らもそれに気がつくでしょう。

アメリカ、アイダホ州  
リッキー・J、19歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 質問

「ある日、ニューファイ第一書7章12節を読むと、もしわたしたちが主を信じる信仰を働かせれば、主は何でもおできになると書かれていました。キリストを信じる信仰をどのように働かせればよいのでしょうか。」

## あなたの意見を聞かせてください

質問に対する意見を、氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先— Questions & Answers 11/06  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス—  
liahona@ldschurch.org

2006年11月15日必着で送付してください。■

# 神権の祝福を受ける



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証<sup>あかし</sup>を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勧めてください。

**扶助協会に所属する祝福**——扶助協会では、神権者を支持し、支え、また、神権者と一致して働くことの大切さを学べるように姉妹たちを助けています。そして、福音の儀式を受ける備えをし、神殿の聖約に入れるように姉妹たちを助けます。

**教会に入ってから年月の長短にかかわらず、どうすれば神権の祝福を受けることができるでしょうか。**

**教義と聖約 84 : 35 – 38**——「主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。わたしの僕たち<sup>しもべ</sup>を受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を

受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。」

**十二使徒定員会会員 ロバート・D・ヘイルズ**——「神の王国に入ると、バプテスマを受けたばかりの会員であるわたしたちは、回復された神権を尊ぶようになります。神権を尊び従順に戒めを守ることは、改心の過程において重要な要素です。成人男性であれば、バプテスマの後すぐにアロン神権を受けます。さらにある期間が過ぎ、ふさわしければ、メルキゼデク神権を受け、家族の一人一人が家庭で神権の祝福を分かち合うようになります。女性は扶助協会で歓迎され、姉妹たちの輪に加わって祝福を受けます。……

バプテスマの後、少なくとも1年、誠実に歩んで、主の神殿に参入する備えをします。聖なる神殿において、神聖なエンダウメントを受け、父なる神とその御子イエス・キリストのみもとに帰るためには、どのように生活しなければならぬかを学びます。やがてわたしたちは、この世から永遠にわたって結び固めを受けます。」「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」『聖徒の道』1997年7月号、94)

**どうすれば、扶助協会の姉妹と神権者である兄弟が互いに支え合えるでしょうか。**

**ペリピ 1 : 27**——「一つの霊によって強く立ち、一つ心になって福音の信仰のために力を合わせて戦い[なさい。]」

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレー**——「教会の姉妹たちは兄弟たちと協力して、主の大いなる業を推し進めています。……女性は神権者と同様の欠かせない役割を担っています。地上に神の王国を築くために、すべての人が力を合わせて働くのです。わたしたちは女性の能力を尊重し、女性が指導力と強さを発揮し、任された組織の管理運営を通して素晴らしい結果をもたらすように期待しています。神のすべての子供たちに『不死不滅と永遠の命をもたらす』業において(モーセ1 : 39)、神を助けてともに働く女性を、わたしたちは神の娘として支持し、支援します。」「(『汝もし忠実にして』『聖徒の道』1985年1月号、86参照)

**中央扶助協会会長会第一顧問 キャスリーン・H・ヒューズ**——「扶助協会は神により、預言者を通して、そして神権の権能の力により設立されました。扶助協会が存在することは、教会の組織に必要なことです。家族をキリストのみもとに連れて行こうと努力する男性と女性は、それぞれ神権定員会と扶助協会という組織にあって、ともに協力し合います。わたしたち女性は、教会における自分たちの役割が男性の役割より劣っているなどと決して考えるべきではありません。義にかなった女性として神権を尊びつつ、女性としての自らの神聖な召しを担う必要があります。……仕え合い、愛し合い、助け合うという女性の天与の召しと[そうしたいという女性の]望みから、扶助協会は発展していきました。主の業において神権の儀式や導きが必要となるように、わたしたちの奉仕も必要とされています。」「(『主との聖約』『リアホナ』2003年11月号、108) ■

# 新会員が取り入れる 新しい伝統



人は地上にある  
神の王国に入ると、  
それまでの伝統が  
福音と相いれなければ  
それを捨て去り、  
新しい伝統を  
取り入れます。

七十人  
F・メルビン・ハモンド

**末**日聖徒イエス・キリスト教会には、定員はありません。教会は生命力のあふれた、成長する組織です。悔い改めて、バプテスマと確認の門を通り、主の王国へ入ることを望むすべての人を、主は歓迎されます。主はこのように言われました。「神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことと、最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受けることを教会員の前に証明し、また自分の罪の赦しを得るよう<sup>ゆる</sup>にキリストの御霊を受けたことをその行いによってまことに明らかにする人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」(教義と聖約20：37)

これらの要件を満たし、バプテスマを受けると、霊的に生まれ変わり、神の子になります。「もし子であれば、相続人でもあります。神の相続人であって……キリストと共同の相続人なのである。」(ローマ8：17) わたしたちは地上で最もすばらしい家族の一員となります。そして「御霊み<sup>ゆる</sup>ずから、わたしたちの霊と共

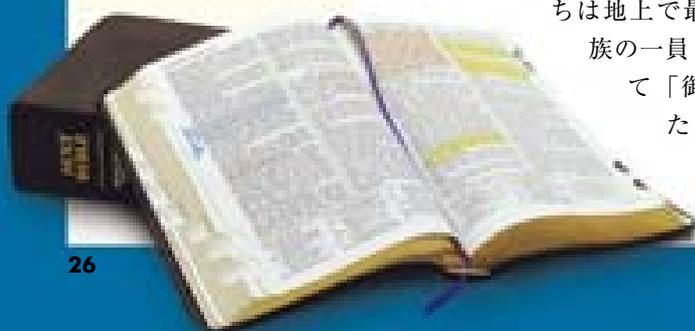
に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる」のです(ローマ8：16)。ペテロはこの家族を「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民」と表現しました(1ペテロ2：9)。富や知識、年齢や健康状態のいかにかわりなく、すべての人が悔い改め、バプテスマと確認を受け、この唯一無二の家族の一員になるよう招待を受けています。

この新しい家族の一員になると、「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである」ということを覚えておかななくてはなりません(ガラテヤ3：28)。この教会には社会的な階級は何もありません。人に上下はないのです。なぜなら、神は「人を偏り見ない」御方だからです(教義と聖約1：35)。

この家族がどのようなものかについて、救い主がアメリカ大陸を訪れた後に、モルモンは次のような美しい言葉で表現しています。「民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく争いがなかった。

また、ねたみや紛争、騒動、みだらな行い、偽り、殺人もなく、どのような好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。

強盗も人殺しもおらず、レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け





継ぐ者であった。」(4ニューフェイス 1: 15-17)

人は地上にある神の王国に入ると、それまでの伝統が福音と相いれなければそれを捨て去り、新しい伝統とともに新しい文化を取り入れます。イエス・キリストと主の預言者に忠誠を示します。肉体や精神、霊を汚す古いものは過去に置き去り、より良い生き方をしっかりと身に付けるのです。新しい会員が取り入れることになるすばらしい伝統を、いくつか紹介しましょう。

**1. 賛美歌を歌う** 自分は声が良くないとか、努力をするのが大変だからと考えて、教会の賛美歌を歌うことを躊躇する人がたくさんいます。「義人の歌はわたしへの祈りである」と主がおっしゃっていることを覚えておいてください(教義と聖約25: 12)。年齢にかかわらず、思い切って大きな声で歌いましょう。教会の家族の一員であるという気持ちが高まり、生活に御霊を招くことができるでしょう。

**2. すべての集会に出席する** 日曜日には聖餐会などの集会に出席します。週日には、そのほかの招待された集会に出席します。集会に出席するのは、救い主について多くのことを学び、バプテスマを受けたときに主と交わした聖約を聖餐を取ることによって新たにし、福音の重要な真理について話し合い、また学ぶためです。同時に、この新しい家族の兄弟姉妹と交わり、永遠の友情をはぐくむための社交的な機会が得られます。

**3. 断食し、断食献金を納める** 断食の律法は、わたしたちの中の貧しい人や困っている人のために献金することにより、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛を教える、神の方法です。健康状態に差し障りのない会員は皆、1か月に1度の断食安息日に、食事を2回抜きます。その間は食べ物や飲み物を取らないで、2回分の食費に相当するお金を、困っている兄弟姉妹を助けるために、教会へ献金します。祈りの気持ちで断食することほど、謙遜になり、主に近づくのを助けてくれるものは、ほかにありません。

**4. 什分の一を納める** 什分の一とは全利益の10分の1です。このお金は、わたしたちを慈しんでくださる主へお返しするものです。そして、礼拝堂や神殿の建設、福音を宣べ伝える宣教師の派遣、教会書籍や教材の印刷、その他多くの有意義な活動など、主の業を進めるために使われま



す。什分の一は、老若男女、すべての人が納めるものです。

わたしたちはしばしばこのように言います。「什分の一は金銭的な原則ではなく、信仰の原則です。」主はこのようにおっしゃっています。「これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい。」(マラキ3: 10) わたしたちは、すべてを与えてくださる主に什分の一を納めるのを控えることはできないのです。

**5. 家族と個人の祈り** 救い主は常に祈るよう命じられました。わたしたちは祈りを通して、神の御子イエス・キリストの名により、天の御父と個人的に心を通わせることができます。祈りは必ず聞かれ、神御自身の方法により、神が定められたときにこたえられます。たとえ、その答えがわたしたちの願望や期待とは違うものであっても、わたしたちにとってはいつも祝福となります。食事をするときは必ず感謝の祈りをささげ、朝夕、家族や個人の祈りをささげなくてはなりません。祈りを通してわたしたちは、天の御父と御子イエス・キリストを知るようになります。御二方を知ることは、永遠の命を得ることです(ヨハネ17: 3参照)。

**6. 月曜日の夜に「家庭の夕べ」を開く** 月曜日の夜は、ほかの活動をしないで、家族で一緒に過ごすために空けておくことになっています。聖文の勉強や楽しい活動をする、家族の将来の計画を立てるなど、良い時を過ごし、それを通して家族で一緒に、霊的に成長することができます。

家庭の夕べは、それぞれの家族の人数や必要に合わせて行ってください。独身の人は、家庭の夕べのグループについてビショップや支部会長に尋ねてください。たとえ配偶者や子供がいなくても、状況に合わせて家庭の夕べを行うなら、祝福を受けることができます。

**7. 教会の召しを受ける** 会員は皆、教会で兄弟姉妹に奉仕する割り当てや責任を受けます。大管長会第一顧問のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長(1871-1961年)はこのように述べています。「主の業に携わるときに大切なのは、どのような責任を受けて奉仕するかではなく、どのように奉仕するかです。」<sup>1</sup> わたしたちは自分から召しを望むことはありませんが、たとえ自分がその召しに適任だと思わなくても、奉仕する召しを決して断るべきではありません。互いに奉仕することはすなわち神に奉仕すること

であり、奉仕を通して同胞と天の御父に対する愛は深まります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、教会ではすべての新会員に、友人と責任と神の善い言葉による養いが必要であると、何度も述べています。<sup>2</sup> 互いに奉仕することは、この教会の最も素晴らしい伝統の一つです。

**8. 神殿へ入るために備える** 忠実な人だけが神殿、すなわち主の宮へ入ることができます。神殿の中では、儀式に参加し、自分自身と先祖のために聖約を交わします。清くないものは神のみもとに行くことはできません。神殿に入るには、ビショップとステーク会長（または支部会長と伝道部会長）が署名した推薦状が必要です。神殿では、あらゆるものの中で最高の特権、すなわち神とキリストがお住まいになる日の栄えの王国へ入るための、備えをすることができます。「家族は永遠に」一緒にいることができますが、それは神殿の聖約と儀式を通してのみ実現します。<sup>3</sup>

**9. 毎日、聖文を研究する** わたしたちは毎日聖文を研究するように勧められています。預言者ジョセフ・スミスはこのように述べています。「『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」（モルモン書序文）確かに毎日、わたしたちは聖文を研究し、特にモルモン書を読む必要があります。

**10. 「知恵の言葉」を実践する** 神はその子供たちに、健康に関する神の律法に従うことにより、肉体も霊も強くなれると教えていらっしゃいます。わたしたちはあらゆるアルコール飲料やたばこを取らないように勧められています。お茶やコーヒーは体に有害であると教えられています。有害な薬物は中毒になり、感覚がまひして、体に障害が生じます。規則正しい運動は、賢明に行うならば、体が強くなり、より長く生きることができます。この戒めを守る人には、「そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。また、走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない」という約束が与えられています（教義と聖約89：18-20）。

新しい文化には、ほかにも多くの伝統が伴いますが、以上の10項目を行うなら、わたしたちは互いに親しくなり、

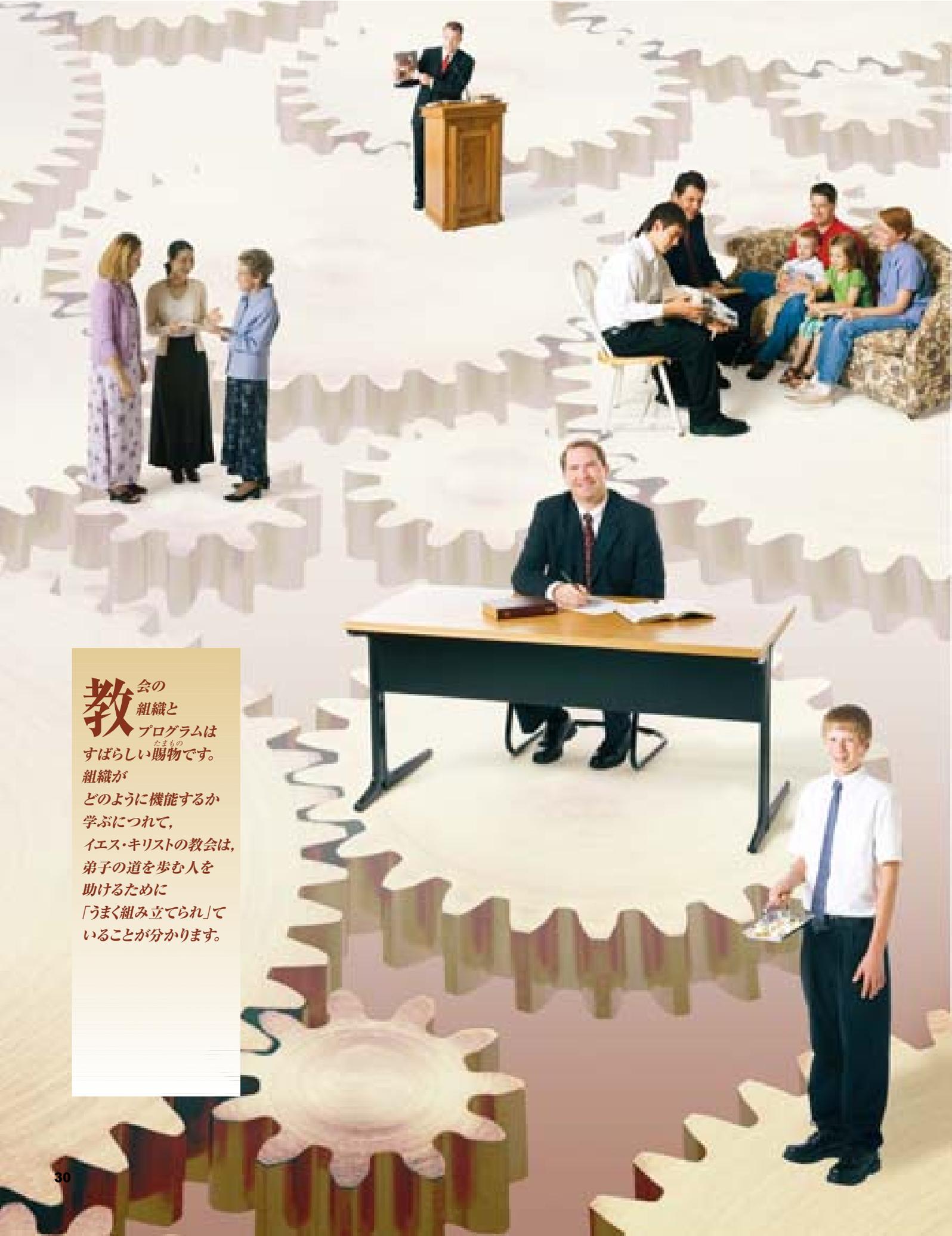
主に近づくことができます。理解力と成熟度、そして御父と御子の御心<sup>みこころ</sup>に従順に従う度合いが増すにつれて、わたしたちは皆、これらの伝統を熱心に取り入れるようになり、御父の素晴らしい家族の中にあって相続人になります。ペテロはこれを大変分かりやすく述べています。「すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ……なさい。」（1ペテロ2：17）これらの特別な伝統は、わたしたち皆が属する新しい家族、末日聖徒イエス・キリスト教会の中で、永遠に続くきずなを築き、深めてくれるものなのです。■

F・メルビン・ハモンド長老は、1989年から2005年まで七十人会員を務めました。

#### 注

1. "Not Where You Serve, but How," *Improvement Era*, 1951年6月号, 412
2. ゴードン・B・ヒンクレー「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 125参照
3. 『賛美歌』187番参照





**教** 会の  
組織と  
プログラムは  
すばらしい賜物です。

組織が  
どのように機能するか  
学ぶにつれて、  
イエス・キリストの教会は、  
弟子の道を歩む人を  
助けるために  
「うまく組み立てられ」て  
いることが分かります。

# 教会の慣習を知り、 自分の居場所を見つける

ジャン・ピンボロー

教会機関誌

**末**日聖徒イエス・キリスト教会のワードに初めて出席したローリー・ツロモンは、とても驚きました。教会で会う人たちは皆、この上なく親しみやすく、親切でしたし、そのうえ、皆が自分の聖典を持って来ていて、どの集会でも聖文を読み、聖文について話し合い、聖文を生活に取り入れる方法を学んでいるのです。ローリーは感銘を受けました。それまで通っていた改革派ユダヤ教会では、ユダヤ教の「トーラ」という聖典がヘブル語で読み上げられていたのですが、ローリーにはその内容がまったく理解できませんでした。

次に教会に出席したとき、ローリーは強い衝動に突き動かされて、断

あかしかい  
食証会のマイクの前に立ちました。礼拝堂の中は、知らない人だらけです。ローリーは、心の中にある気持ち——すでに確信に変わりつつあったその気持ちを、言葉にしようとしていました。そしてこう言ったのです。「皆さんはわたしの家族です。」ローリーがバプテスマを受けたのは、

2001年、イリノイ州シカゴにおいてのことでした。

使徒パウロは、改宗することを、霊の家族を見いだすことになたとえています。「ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって……近いものとなったのである。……そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ2:13, 19)

しかし、教会が真実だと分かることと、教会の慣習を理解することとは別です。ローリーも、すぐそのことに気づきました。新しい会員がたいてい経験するように、ローリーも、長く集っている会員には当たり前の手順や慣習、専門用語に戸惑いを覚えました。例えば、聖餐会では発言しないということを知りませんでしたし、「家庭・家族・個人を豊かにする集会」という言葉を初めて聞いたとき、家族を連れて出席する集会のことだと思いました。このような当たりまえとなっている事柄に慣れるのには時間がかかります。

だれの場合にも、改宗には少なくとも二つのプロセスが含まれます。一つは非常に個人的なこと、すなわち、イエス・キリストの回復された福音の真理を学び、受け入れ、新たな信仰によって霊的に変わる、つまり改心することです。この改心のプロセスとは、悔い改める、主と聖約を交わす、聖約を守る、熱心に主の御心みこころを行うなどの行為を生涯続けることです。その道を歩み続けるうえで、だれもが助けを必要とします。そこで、末日聖徒同士のフェロウシップという、もう一つのプロセスが必要になるのです。これには、新しい仲間仲間に溶け込む、集会に出席する、活動に参加する、奉仕を行う、奉仕を受けるといったことが含まれます。これを通じて、教会の各組織から霊的な改心に欠かせない助けを受けることができるのです。

## 「動」の教会で奉仕する

メリーランド州で敬虔なカトリック教徒として育ったジー

写真：ジョン・ルーカス・ワグネル・スミス、写真はイメージです

## すべての会員に居場所があります



教会では、会員は皆一つのグループに所属し、奉仕したり、奉仕されたりする機会が与えられています。

**男性**——12歳以上の男性会員で、神権に聖任されている人は、アロン神権定員会またはメルキゼデク神権定員会に所属します(教義と聖約第20章;第107章参照)。

• アロン神権においては、ビショップまたは支部会長の指示の下、執事は断食献金を集め、聖餐を配り、教師は聖餐の準備をし、ホームティーチャーとして働き、祭司は聖餐の祝福とバプテスマを執行し、ほかの祭司、教師、執事を聖任することができます。教師は執事の任務を果たすよう割り当てを受けることができ、祭司は執事と教師の任務を果たすよう割り当てを受けることができます。

• メルキゼデク神権においては、長老(18歳以上)は執事、教師、

祭司の責任を果たすことができます。そのほかに、長老は聖霊の賜物を授けたり、病人を祝福したりすることができます。大祭司は長老の責任に加え、ビショップリックや高等評議員、およびステーク会長会で奉仕することができます。

12歳以上18歳未満の男子は、このほかに若い男性という組織に所属して福音を学び、健全な活動に参加します。

**女性**——教会の12歳以上18歳未満の女子は、若い女性という組織に所属します。この組織では福音の原則を学び、健全な活動に参加して、奉仕活動を行い、指導力を伸ばします。18歳以上の成人女性は扶助協会に所属して、霊的に成長し、助けが必要な人に奉仕します。

**子供**——3歳以上12歳未満の子供たちは、初等協会に所属して福音の原則を学び、ほかの子供たちと一緒に楽しい活動に参加します。1歳半以上3歳未満の子供たちは託児クラスに参加することができます。



ン・ガードナーは、ビショップといえば有給の専任聖職者のことだと思っていました(訳注——末日聖徒の「ビショップ」を意味する英語の“bishop”は、カトリック教会では「司祭」の意)。ですから、ユタ州に引っ越して来て、向かいに住むトラック運転手が、近所の末日聖徒イエス・キリスト教会のビショップだと聞いたとき、彼女は大変驚きました。2005年にバプテスマを受けたガードナー姉妹は、今では、一般の教会員が管理する、有給の専任聖職者のいない教会に属していることに感謝しています。

マドゥ・メノン は、教会の召しを果たすことを通して、教会の組織について理解を深めてきました。インド生まれで、ヒンズー教の背景を持つメノン兄弟は、1984年に教会員になりました。メノン兄弟はこう語っています。「召しを受けて、積極的に人を助けるようになりました。そうする中で、指導者から、教会の組織や、与えられた責任の果たし方を教えてもらいました。ホームティーチャングにしろ、福祉の割り当てにしろ、一つ一つの召しや奉仕の機会を通じて、教会の組織とはどういうものか分かってきました。」現在、メノン兄弟はステーク高等評議員として奉仕しながら、教会に対する理解をさらに深めています。

## 自分から声をかける

普通の会員が人前で教えたり、話したり、祈ったりすることは、前の教会でそのような経験をしなかった人にとっては、不安材料になるかもしれません。アイリーン・フィゲレスは現在、扶助協会中央管理会の一員として奉仕しています。責任上、彼女は世界中の扶助協会の指導者を教えなければなりません。フィゲレス姉妹は、21歳のときにハワイで改宗しました。初めて集会で祈るよう頼まれたとき、また、教師改善クラスの一部を教える割り当てを受けたときに不安を感じたことを、今でも覚えています。子供のころから通っていた仏教徒の集まりでは、「僧侶がすべてををしていたので、わたしたちはただ座って説法を聞けばよかったです。」フィゲレス姉妹にはクリスチアンの背景がなかったので、聖文を理解するのが初めは困難でした。そんな気持ちを友人に打ち明けると、その友人と一緒に聖文を勉強しようと言ってくれました。ほかの友人たちも、祈りの仕方を教えてくれました。

フィゲレス姉妹は、新会員にとって大切なのは、会員との関係を築くために自分から声をかけることだと言います。「勇気を出して、必要としていることを伝えて、会員たちに助けてもらうことが大切です。」フィゲレス姉妹はそう語っています。

新会員だったころを思い出すと、奉仕する相手に心を配るという「本質」よりも「規則」に従って責任を果たすことに重点を置きすぎていたと、フィゲレス姉妹は反省します。新たな責任に重荷を感じて圧倒されないためにも、責任に取り組むときには新しいことを学ぶ喜びに

心を向けるようにと、フィゲレス姉妹は勧めています。「わたしにも、自分にはできないという気持ちや、怖いという気持ちがありました。でも、御霊と神様の愛を十分感じていたので、改心のプロセスを前進することができました。」フィゲレス姉妹は当時を思い起こして、そう語ります。

## 「教訓に教訓」を受けて学ぶ

新しい会員はだれでも経験するのですが、教会について学ぶには「教訓に教訓」を受ける必要があることをジャナ・リースも知りました（イザヤ28：10参照）。1991年に宣教師から福音を学び始めたとき、ジャナは長老派教会の牧師になるための訓練を受けていました。ある日曜日、彼女は姉妹宣教師たちに感謝を示すために、レストランでの昼食に誘われました。宣教師は安息日には外食しないようにしていると優しく説明しました。あれから15年が過ぎ、リース姉妹は教会の召しを数多く経験しました。それでも、自分はまだ改心の途上にあるとリース姉妹は感じています。「主の弟子になる道は、生涯続く道であり、バプテスマの水から上がったときに終わるものではありません。」リース姉妹はそう言います。「わたしはまだ改心を続けているんです。」

当時を振り返ると、新しい会員だった自分に手を差し伸べ、霊的に進歩できるように関心を寄せてくれた人たちの存在が何よりも大きな祝福だったと、リース姉妹は言います。今、リース姉妹は、改宗者がキリストの弟子として成長できるように助け、心配事の相談に乗って

## 教会を統治する組織——

### 「使徒や預言者たちという土台の上に建てられている」

教会の頭はイエス・キリストです。主は神権定員会を通して、教会を統治する権能を拡大されます。神権定員会は、各々定められた責任を与えられています。以下の役職にある男性はメルキゼデク神権を持ち、中央幹部と呼ばれています（七十人第三定員会から第八定員会の会員は中央幹部ではなく、地域七十人と呼ばれます）。

- 大管長会は、大管長と顧問で構成される定員会であり、教会全体を管理します。
- 十二使徒定員会は、世界中の教会の宗務を指導し、伝

道活動と教会プログラムの運営を監督します。使徒は「全世界におけるキリストの名の特別な証人」です（教義と聖約107：23）。

- 七十人定員会は、十二使徒の指導の下で働き、全世界に教会を設立する助けをします。現在教会には8つの七十人定員会が置かれています（民数11：16；ルカ10：1参照）。
- 管理ビショップリックは、アロン神権の会長会として機能し、建物の建設、什分の一献金、福祉サービスなどの実務を監督します。

ます。新しい会員のために祈ったり、ともに祈ったり、役に立つ資料を上げたりしています。そうすることを貴重な祝福だと感じているのです。リース姉妹は、教会に慣れるまでの期間が新しい会員にとってどれほど大変で犠牲を伴うものであるか、分かっていない人が多いと言います。そんなリース姉妹は、初等協会の指揮者という正式な召しに加えて、改宗者に手を差し伸べたり、新しい会員が教会の教えとプログラムを通じてキリストの弟子になる決意を強めるのを助けたりすることが、自分の使命だと感じています。

### 新しい会員の大きな貢献

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、教会について学んでいる

人々に、こう述べました。「その源が何であれ、皆さんがこれまで受けてきた徳と善のすべてを携えて、わたしたちのところへおいでください。そして、それにわたしたちが何か付け加えることができるものかどうか、見ていただきたいと願っています。」<sup>1</sup> 回復された福音は、新たに改宗した人々がすでに得ている真理に新たな真理を付け加えます。一方で、改宗した人々は、回復された教会に強さを加えてくれるのです。

「改宗者の皆さんに分かってもらいたいのです。皆さんのおかげで、教会はどれだけ豊かに、美しくなっていることでしょうか。これは、皆さんのいろいろな経験、背景、才能のおかげです。」リース姉妹はそう言います。「新しい会員は、新鮮で力強い証を持っています。それが、教会全体を霊的に活性化させてくれます。しかし、そのような証は、多くの場合、大きな心痛を通じて生まれるものなのです。

### 知っておくと役立つそのほかの大切な言葉

以下は、教会の組織に関連した重要な言葉です(48ページも参照)。

**ワード**——定められた地理的範囲に住む教会員で構成される地元会員の集合体。

**支部**——ワードに似ているが、ワードより会員数が少なく、プログラムの範囲が限られている。

**ビショップリックまたは支部会長**——ビショップまたは支部会長と、二人の顧問で構成され、ワードまたは支部の会員とプログラムを管理する。

**ステーク**——数個のワードで構成される管理上の単位。

**地方部**——数個の支部で構成される管理上の単位。

**ステーク会長または地方部会長**——ステーク会長または地方部会長と、二人の顧問で構成され、ステークまたは地方部の会員とプログラムを管理する。

**ステークセンター**——ステーク会長が使用する事務室と一つ以上のワードが入っている建物。

**ステーク高等評議会**——ステーク会長がステークにおいて主の業を監督できるように助ける組織。12人の男性で構成される。

実際のところ、わたしたちは全員改宗者です。教会員として生まれ生涯福音を教えられてきた人たちも、自分自身で決断しなければならぬ時が必ず来るのです。」

使徒パウロは自分自身が改宗した後、<sup>ひ</sup>比喩を用いて教会員一人一人の人生と教会の組織との関係について教えました。「あなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長[する。]」(エペソ2:20-21) 教会の組織とプログラムは、すばらしい<sup>たまもの</sup>賜物です。それらを通して、わたしたちは皆、教会員歴の長短にかかわらず、信仰を共にする者としての友情を深め、イエス・キリストの福音に対する確固たる証を築く努力をし、弟子の道を歩んで行くことができるのです。■

注

1. 「わたしたちの信仰の驚くべき基盤」『リアホナ』2002年11月号, 81



# 家

メーガン・ワーカー

日曜日のドレスに身を包んだわたしは、車から降りると傘を広げました。ホームステイ先のお父さんは、ほほえむと赤れんがの建物を指さして、「ダス・ゲボイデ・ドルト・ドゥリューベン(あそこの建物だよ)」と言いました。わたしは彼に礼を言い、その車が広い道路に戻って行くのを見守りました。

合衆国の家を離れてドイツに来たとき、わたしに教会は要らないと思いました。最初の2週間、<sup>せいさん</sup>聖餐会に出席しなくても何も感じなかったのですが、この2週間は、週末が来る度に、「何か足りない」と気づくようになりました。集会所の場所は、ドイツのこの

小さな町で伝道する二人の宣教師から前の晩に教わりました。建物に近づくにつれ、その「何か」がわたしをせき立てるのです。

わたしが玄関に着くと、一人の長老がドアを開けて、中に入るよう合図してくれました。その部屋はわたしの寝室ほどの広さで、壁はしつくいを塗った質素なものでした。その小さな部屋にあった家具と言えば、いすが4列に簡素な木のテーブルがあるだけで、そこにパンと水のトレイが一つずつ置かれていました。窓には白いレースのカーテンが掛かっていました。

部屋は小さく、知っている人はいませんでしたが、わたしの心に最初に浮かんだのは、「やっと我が家に戻って来た」という思いでした。

わたしが座るとすぐに聖餐式が始まりました。皆が「主のみたまは火のごと燃え」(『賛美歌』3番)を大きく明瞭なドイツ語で歌い、わたしはその調べに懐かしさを覚えながら歌いました。この賛美歌がわたしにこれほど大きな衝撃を与えたことはかつてありません。

わたしは、雨の降る外の通りを歩く人たちに笑顔で踊りながらこう言いたい気分でした。「分からないの? この教会が真実だって分からないの? すばらしいじゃない?」

聖餐の祈りが始まり、わたしは頭を下げてよく知っている祈りをドイツ語で聞きました。わたしは、一言一言をかみしめるように、熱心に聴きました。そしてもう一度「やっと我が家に戻って来た」と感じました。

プラスチック製の聖餐のトレイが回って来たときには、涙が込み上げてきました。集会に集まった人は少なかったものの、御霊を強く感じました。ほかの人たちも泣いていました。御霊が胸の中で燃え、幸福感に包まれるのを感じました。そんなことは初めてでした。

わたしはレースのカーテン越しにどんよりとした外を見て、涙混じりにほほえみました。あのときわたしは、家族から何千キロ離れていても、教会に来れば我が家にいるような気持ちになれるのだと悟ったのです。■

# 困難を乗り越える

ラリー・ヒラー

教会機関誌

**30**年前にジュディーと初めて会ったとき、彼女が教会員になって4年しかたっていないとは思いませんでした。教会では重要な責任を果たしていて、わたしははっきり教会員の家庭で育ってきたのだと思いました。

3年前、ローラはステーキ大会ですばらしい開会の祈りをささげました。祈りの後で、わたしたちはローラがほんの数か月前にバプテスマを受けたことを知りました。わたしはこう思いました。「驚いた。すごく成長したんだね。」

ジュディーとローラの新しい改宗者としての経験を聞いたとき、二人が予想以上に困難に満ちた新会員としての生活を送ってきたことを知りました。二人の経験は、多くの、いえ、ほとんどの新しい改宗者と共通するものです。

## 困難はあります

ジュディーはこう言います。「自分の所属する教会が変わるだけではありません。生活そのものが変わるのです。バプテスマを受けた後で『ほんとうにわたしにできるかしら』と自問していました。」

ローラもうなずきます。「こんなに大変だとは思いませんでした。」

重要なのは、困難に遭ったり、圧倒されたりしていると感じるの自分だけではないと認識することです。同じ経験をした人がたくさんいることを知るだけで、今の状況を堪え忍ぶことができます。当惑したり、恥ずかしく思ったりせずに、ビショップまたは支部会長、ホームティーチャーや周りの教会員に助けを求めてください。そして



## 改宗とは

一つの出来事ではなく、

過程である。

新しい証とは

若い苗木のようなもので、

可能性に満ちているが、

時間と慎重な養いが

必要である。

最も重要なのは、主の助けによってそれを成し遂げられるという真の希望を持つことです。

主はあなたを見捨てるために御自分の教会に導かれたのではありません。「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニコライ3:7)

## 無知は恥ずかしいことではない

無知は恥ずかしいことでも、罪でもありません。覚えなければならない新しい言葉や用語があることに、困惑することがあるかもしれません。(仕分の一年末面接?) 教会の組織はすべて特有のもので、(ステーキ高等評議会?) 聖文を読んだり、示された箇所を探したりすることは、初めは難しいかもしれません。(オムナイ書はどこですか?) 教会には、あなたが知らなかった責任、すなわち召しがあり、突然その一つを受けるように求められるかもしれません。(若い女性の書記は一体何をするのでですか?)

心配しないでください。主は、あなたが知らないことに対して非難されることはありません。しかし主は、あなたの心の思いを読むことのおできになるただ一人の御方です。ほかの人にはあなたの心を読むことはできないので、質問することを恐れなくてください。あなたが歩み寄って教会で友達を作り始める中で、信頼の置ける人を見つけてください。質問に答えること

**人** 生における嵐を切り抜けることで  
木は強くなる。  
忠実な養いと忍耐の報いは、  
実り多い生長と  
「どんな甘いものよりも甘い」豊かな収穫  
なのである(アルマ32:42参照)。

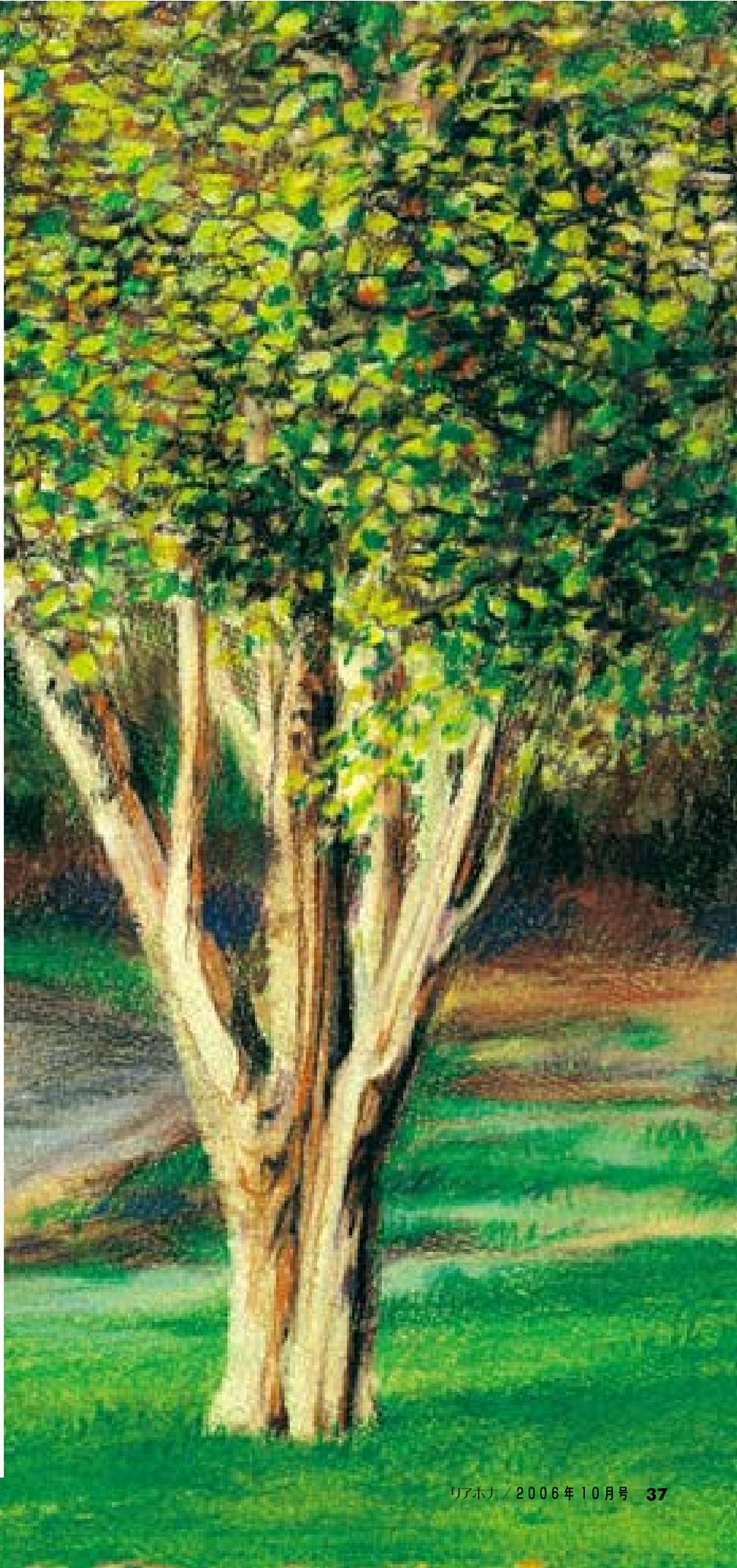
ができ、物事を説明できる教会員の友人です。そのような助言者を見つけることが難しくければ、ビショップまたは支部会長に助言者を見つけるのを助けてもらいましょう。もし召しをもらったら、あなたの務めを説明してもらいましょう。入手できる手引きやその他の資料などについて尋ねましょう。

そしてジュディーが言うように、「少しずつ知識を増していくのです。基本から始めます。」それから忘れないでほしいのは、あなたにはこれから福音を学ぶうえで大切な基礎がもうすでに備わっているということです。つまり教会が真実だと知っているのです。

### 失望に対処する

時には、自分自身に失望することもあるでしょう。あなたはバプテスマと確認の儀式によって清められましたが、完全になったのではありません。ほかの教会員についても同じことが言えます。だれもが間違いを犯すので、悔い改めて聖餐を受け、バプテスマの聖約を新たにする必要があります(これらの聖約に関する詳細は、10ページのジェフリー・R・ホランド長老の記事参照)。わたしたちが悔い改めてより善い人になろうと励むとき、聖霊はさらに清くなれるように助けてくださいます。わたしたちは罪を犯したいと思わなくなります(モーサヤ5:2参照)。贖いの力は、わたしたちの性質を変え始めるのです。

ローラは次のように言います。「今は教会員



でいることが、もっと楽になりました。天のお父様は正しいことをしたいという望みを強めてくださいました。いろいろなことをもっと簡単に、自然にできるようになってきています。」

ほかの教会員の不完全な部分が浮き彫りになっても、ローラは人の不完全さはあまり気にしなさいと言います。「批判的にならないように懸命に努力しています。人のありのままを受け入れようとしています。皆が最善を尽くしているのです。」

### 負いやすいくびき、軽い荷

救い主はすべての人を次のように招いておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂たましいに休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11 : 28 - 30)

くびきとは、1頭ではとても負い切れない重荷を、2頭で公平に難なく分けるための道具です。家畜が畑を耕したり、荷車を引いたりする多くの地域では、今でもくびきが使われています。

救い主のくびきに関して、教会の第14代大管長であるハワード・W・ハンター大管長(1907 - 1995年)はこう語っています。「主のくびきを引くには、大きな、熱心な努力を必要とします。しかし、心から改宗した人にとってそのくびきは負いやすく、荷は軽いのです。……

人生の重荷は人によって明らかに異なりますが、わたしたちは皆重荷を背負っています。……要するに、キリストは一人一人に、そしてすべての人類にこう呼びかけておられるのです。『皆が何らかの重荷を負い、くびきを負わなければならないのであれば、わたしのくびきを負ってはどうか。わたしのくびきは負いやすく、わたしの重荷は軽いと約束しよう。』<sup>1</sup>

改宗は一つの出来事ではなく、過程です。天の御父は忍耐強く、親切で、情け深い御方です。御父は御霊みたま たまものの賜物を「[主]を愛して[主]のすべての戒めを守る者たち」だけでなく、「そうしようと努める者たち」にもお与えになります(教義と聖約 46 : 9, 強調付加)。自分の知っている事柄に従って生活すれば、さらなる知識と力が与えられるでしょう。あなたが今までに築けなかった自分を、主に築いていただきます。主は次のように約束しておられます。「わたしの前にへりくだ

るすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル 12 : 27) ■

注

1. 「わたしのもとにきなさい」『聖徒の道』1991年1月号, 19

## 疑問が生じたら

疑問は自然なものです。心に浮かぶものもあれば、人から来るものもあります。その出所にかかわらず、疑問にうまく対処するための、長年試されてきた方法がいくつかあります。

### 1. 今までにあなたが得た霊的な経験を思い出しましょう。

オリバー・カウドリは、モルモン書が翻訳されるほとんどの期間、ジョセフ・スミスの筆記者を務めていました。オリバーは預言者ジョセフの金版に関する証が真実であることをすでに知っていました。しかし、オリバーは主からさらなる証を望んでいるようでした。主は預言者ジョセフを通してオリバーに次のように勧告されました。

「あなたはこれ以上の証を望むならば、これらのことが真実であるのを知ろうとして心の中でわたしに叫び求めた夜のことを思い出ささい。

わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いなる証があるであろうか。」(教義と聖約 6 : 22 - 23)

主はわたしたちが御霊によってすでに受けた証を覚えておくよう望んでおられます。

**2. 忍耐強くありましょう。** 理解できないことに直面したら、忍耐強くありましょう。すでに知っていることにしっかりとつかまりましょう(つまり、覚えておきましょう)。ローラはこのように語っています。「わたしはすでに知っていることにしっかりとつかまって、惑わされないようにします。そして祈りの中で求め続けています。主はわたしの準備ができたときにこたえてくださるからです。」

**3. 信仰を養い、疑念を振り払いましょう。** 祈り、聖文を研究し、戒めを守り続けるなら、証がさらに強められるでしょう。アルマはこの過程を、種を養うことにならしてきています。この種はやがて芽を出し、甘く好ましい実をつける木に生長するのです(アルマ 32 : 28 - 43 参照)。疑いを大きくすることは逆の結果を生み、証はしおれてしまいます。

# 末日聖徒の若人となる

**バ**プテスマと確認の儀式を受けるというあなたの決心は、何とすばらしいものでしょう。教会の新しい会員として、これからの人生でたくさんの幸せな経験をすることでしょう。以下の活動やプログラムは、皆さんが学ぶうえで役立ち、人生のあらゆる側面で指針を与えてくれるものです(子供のためのアイデアは「フレンド」16ページ参照)。

**アロン神権／若い女性に出席する。**毎週日曜日、あなたはワードや支部のほかの青少年と、男性はアロン神権の集会、女性は若い女性の集会にともに集います。毎週、皆さんの年齢に合ったレッスンが行われます。

**家族とともに家庭の夕べを開く。**末日聖徒になるということは、より善い人になるということでもあります。家庭の夕べは、皆さんが家族とともに福音を勉強することで、家族にもっと親切になり、愛をもって接することを学ぶ機会となります。

**ミューチャルに行く。**週に1度、青少年と指導者が集まり、グループやクラスの活動を行ったり、奉仕やスポーツに参加したりします。皆さんはミューチャルですばらしい人と知り合い、友達になり、楽しむ機会が得られます。

**セミナーに出席する。**14歳から17歳であれば、セミナーに出席することができます。セミナーではすばらしい教師から、同世代のクラスメートとともに、聖文を深く学ぶことができます。たとえ出席するために早起しなくてはならないとしても、想像以上に多くのことを学べるでしょう。

**『成長するわたし』または『神への務めを果たす』プログラムに取り組む。**皆さんは若い女性またはアロン神権指導者から、『成長するわたし』または『神への務めを果たす』という小冊子を受け取り、そのプログラムについての説明を受けることでしょう。両親や指導者が、取り組む目標と経験を選ぶのを手伝ってくれます。これらの

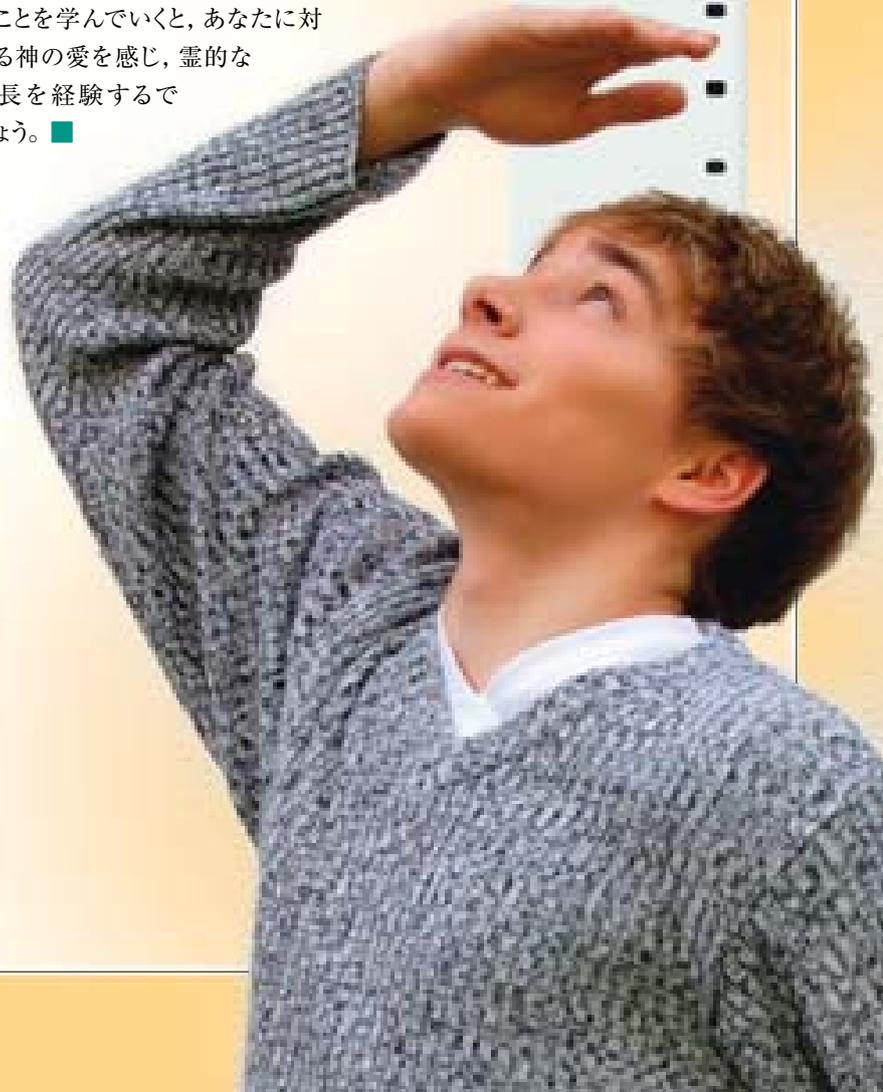
プログラムは数年かけて完成させ、目標を定めて達成していくことを学び、まだ身に付けていない大切な技術を伸ばしていくのに役立ちます。

**毎日聖文を研究し、頻繁に祈る。**祈りと聖文研究を通して、質問に対する答えを受け、試練の中で慰めを受けることができます。祈りの中で、受けている祝福に対して感謝を表しましょう。

**聖霊の促しに耳を傾けることを学ぶ。**聖霊の賜物は確認のときに皆さんに与えられました。聖霊からの促しを理解し、それにこたえることを学んでいくと、あなたに対する神の愛を感じ、霊的な成長を経験するでしょう。■



1,80 m





## 高架下の信仰

グレッグ・カールソン

**わ**たしはワシントン州シアトル郊外の小さな町で育ちました。大都市に比較的近い町でしたが、規模は小さく、伝道資金を稼ぐ機会は非常に限られていました。それでも、近隣には農場経営者がたくさんいたので、弟とわたしはアルファ

ルファの干し草を州東部の大きな農場から、カスケード山脈を越えて地元の小さな農場に運ぶ仕事をするようになりました。わたしたちは使い古しの壊れたトラックを修理し、9,000キロの干し草を運べるようにしました。そして何度も父と一緒に試運転を行い、自分たちだけで運転を行う前に問題をすべて解決できるようにしました。

ある朝早く、弟とわたしは初めて二人だけで出かけました。峠は無事に越

えましたが、干し草を積むのに手間取りました。ようやく干し草を満載して、再び山を越えて帰ることになりました。

帰りは何事もなかったのですが、途中で小雨が降りだしたことに気づきました。わたしたちはすぐに立体交差を見つけ、小雨が本降りになる前に高架下に車を止めました。干し草を覆うための防水シートをまだ購入できていなかったのです。アルファルファはぬれると腐り、すぐにかびが発生するので、

動物の飼料にならなくなってしまう。

もしこの干し草がだめになってしまったら、わたしたちが今までしてきた仕事は失敗に終わってしまうでしょう。

かなり長い時間、わたしたちは高架下で雨がやむのを待っていました。しばらくして、祈れば主が助けてくださることに

気づきました。そこで弟が祈り、わたしたちは待ちました。雨はやみません。恐らく兄であるわたしが祈るべきなのかもしれないという結論に達しました。しかし雨は激しくなる一方です。待っていた時間は、まるで永遠のように感じられました。もしこの高架下を離れたら、

**弟**が祈っても雨はやみません。

わたしが祈ると、ますます

雨脚が強まりました。

次に雨宿りできる所は1時間ほど先の場所で、自宅まではそこからさらに1時間かかることを承知していました。

やがてどちらかが、奇跡は信仰によって生じるという勧告を思い出し、信仰を働かせる必要があることに気づきました。わたしたちは主を信頼し、高架下を離れました。高架下からゆっくり抜け出すときにトラックのボンネットの上に落ちた一つ一つの雨粒は、今でもわたしの目に焼きつい

ています。信仰が厳しく試されたときでしたが、トラックの運転席が高架下から外に出るころには雨がやんでいたのです。それからの帰り道の2時間はひたすら祈りと感謝をささげました。

わたしたちは積荷を良い状態に保ったまま家に帰ることができました。そしてトラックを納屋に入れているそのとき、待っていたかのように空からどしゃぶりの雨が降りだしました。わたしたちの仕事はうまくいき、弟もわたしも伝道資金をためることができました。

すべての祈りがこのような形でこたえられてきたわけではありませんが、雨の降る中、高速道路の高架下に座っているときに弟とわたしが学んだ、信仰についての教訓にとっても感謝しています。■

## もう二度と教会には行かない

オレグ・バラバシュ

「もう二度と教会には行かない。」教会に行かなくなって2か月以上たったときにはそう思っていました。ウクライナのリビフで改宗したばかりのわたしは、孤独感を味わい、教会に行かなくなりました。教会に友達が一人もいなかったのに、教会に出席するとほとんど毎回独りで座っていました。だれもわたしに関心を持っていないのだと思っていたので、教会に行かなくなったのです。友達は教会外の人ばかりで、次第に自分も彼らと同じように酒を飲み、たばこを吸い、不適切な言葉を使うようになりました。

ある日曜日の午後、友人たちと酒を飲み、世俗的な話をしてると、



宣教師がわたしに会いに来ていと兄が伝えにきました。教会のだれかが自分を覚えていたことに驚きました。酒に酔っていたわたしは、そのようなところを宣教師に見られたくないと思いましたが、同時に彼らに会いたいという強い気持ちもありました。少しためらった後、宣教師と会うことにしました。シャムウェー長老とフリストフ長老は会えたことを喜んでくれました。わたしは酔っていないふりをしましたが、二人は気づいていたことでしょう。宣教師が帰ってから、わたしは「自分のしていることが間違っている」と何が訴えかけるのを感じ、嫌な気持ちになりました。宣教師はもう二度と来てくれないと思ったのです。

数日後、再び友人たちと出かけました。途方に暮れ、絶望を感じていたため、わたしは飲み続け、よくない振る舞いをしていました。宣教師がまた来ていると、兄がわたしを呼びに来たときにはほんとうに驚きました。今回は家に帰りたくないと思いました。自分を恥ずかしく思ったからです。しかし、帰るように友人たちから説得されました。宣教師はわたしに会えたことを喜んでくれました。少しだけ話をして、彼らはまた来ると言いました。

次の週はあっという間に過ぎていきました。今度は仲間と出かけませんでした。宣教師が来ると分かっていたからです。宣教師と会うのを待ち遠しく思いました。彼らが来たとき、友達いるときには感じられない何かを感じました。帰りがけにシャムウェー長老がこう言いました。「オレグ、伝道部長が金曜日の夜に支部を訪ねて来るんです。とてもおもしろい話をしてくれますよ。よかったら聞きに来てください。」

「はい、行きます。」しかし、そう言った後で、わたしはこれまでしてき

たことのために、自分は教会に行くのにふさわしくないのではないかと不安になりました。でも、宣教師との約束を破りたくはありませんでした。

支部の集会所に着くと、だれもがわたしに会えたことを喜んでくれました。会員たちは、わたしのことを忘れてはいなかったのです。伝道部長は、義にかなった人となり、あらゆる戒めを守るように努力することの必要性について話をしました。話を聞いていると、何かが心を刺し貫きました。そんな気持ちは久しく感じていませんでした。穏やかで落ち着いた気持ちでした。わたしは御霊を感じていたのです。涙が込み上げ、心の中で悔い改めを叫び求めました。ずっと自分に欠けていたものが何だったのかが分かりました。わたしは御霊を必要としていたので、これからは教会に集おうと決意しました。

数週間後、支部会長から話をしたいと言われました。支部会長はわたしの近況を尋ねました。わたしは泣きだし、何が起きたのかを話しました。支部会長はとても優しく、神権の祝福が必要かどうかを尋ねてくれました。祝福の中で、わたしは戒めを守るためにあらゆる努力をすることを条件に、大きな祝福を約束されました。

後にわたしは若い男性のアドバイザーに召されました。そして1年後に、専任宣教師としてイギリスで伝道する召しを受けました。現在はブリガム・ヤング大学で勉学に励みつつ、プロボの宣教師訓練センターで働いています。以前は、このような祝福が得られるなど夢にも思っていませんでした。わたしは教会に戻る機会があったことをうれしく思い、感謝しています。わたしの生活を変えてくれたイエス・キリストの福音に感謝しています。■

## 自分の正しい居場所

フランシスコ・ハビエル・ララ・エルナンデス

わたしはこれまで、ブリガム・ヤングの指揮の下にソルトレーク盆地に到着した開拓者の話を何度も聞いてきました。わたしはメキシコに住んでいますが、わたし自身の話も開拓者の話に似ています。わたしは真実の教会と人生の目的を見いだすために祈っていました。そして友達の一部であるサンドロが宣教師を紹介してくれ、すぐに彼らの話を聞くようになりました。ある日、宣教師が末日におけるイエス・キリストの教会の回復について教えてくれているときに、わたしは突然大きな喜びに包まれました。わたしはヤング大管長が「まさにこの地です。さあ、行きましょう」と言ったように、目的地を見いだしたことを悟りました。

しかし開拓者と同じように、わたしも行き着いた場所に順応していかなくてはなりません。教会はわたしにとって未知の世界で、素晴らしいところではありましたが、新天地でもあったのです。服装や話し方や振る舞いなど、すべてがなじみのないものでした。教会で普通に使われる言葉の意味が分からないこともありました。例えば、自分より教会に長くいる人と話しているとき、だれかについて「強い教会員」と言い表すことがあります。義にかなっていて、ほかの人に対して模範となるような人のことを指しているのですが、「強い」という言葉に対するわたしのイメージは異なっていました。ほかの人たちにとっては当たり前

の言葉だとしても、わたしは一から学ばなくてはなりませんでした。

求道者から活発な会員になっていく期間は、楽なものではありませんでした。幸いなことに、開拓者同様、わたしは決して独りではありませんでした。サンドロや理解あるほかの会員たちがいつもそばにいてくれて、どんな簡単な質問にも分かりやすく答えてくれました。また、わたしが進もうとしている道の案内役となってくれました。指導者たちは関心を示し、わたしがふさわしい状態にとどまり、神権を受けるのを見守ってくれました。おかげでわたしは後にビショップの顧問として奉仕することができました。教師たちはわたしが神の良い言葉で養われるように教えてくれました。今になって

気づくことは、主はこのような善い人々を通して、わたしが教会にしっかりととどまっていられるよう助けてくださっていたのです。

今では、家族の中で教会員なのはわたしだけではありません。教会員として生活してきた年月は、宣教師として過ごした2年も含めて、とてもすばらしいものでした。

主と主の預言者ヤング大管長のおかげで、開拓者たちはソルトレーク盆地に

定住し、山脈地方における力強い民となりました。偉大な男女がそれを可能にしました。同じようにわたしも教会にしっかりととどまり、成長し、天の御

父のもとに帰る機会を得るために必要な助けを受けてきたのです。■

**開**拓者同様、わたしは決して独りではありませんでした。サンドロや理解あるほかの会員たちがいつもそばにいてくれて、質問に答えてくれました。



# これからどうすれば よいのでしょうか

末日聖徒になると生活が大きく変化します。  
しかし、様々な情報が役立ち、  
また、たくさんの会員の助けがあるでしょう。  
以下は新会員がしばしば疑問に思う事柄に  
対する答えです。

リチャード・M・ロムニー、ビクター・D・ケーブ  
教会機関誌

**孤独を感じているのはわたしだけでしょうか。** あなたのワードや支部の中では、最近改宗したのはあなただけかもしれません。しかし、世界各地では毎年20万人以上の人々が教会に加わっています。あなたのワードや支部の会員たちも、あなたが改宗したことを喜んでます。あなたはレッスンや集会の中で、会員たちが自分の改宗したときの気持ちについて話すのを聞くことができるでしょう。また、『リアホナ』でも改宗した人々の経験について読むことができます。

**自分に期待されている事柄がすべて行えるでしょうか。** 教会ではなすべき事柄は多くあり、圧倒されることもあるでしょう。以前の教会で出席する集会が少なかった場合は、なおさらそう感じるでしょう。しかし、主はわたしたちが能力を最大限に発揮するように望まれているので、キリストのような生活ができるよう、数々の機会を与えてくださいました。忠実に参加してください。長い時間がたつ間にはたくさんの事柄が達成できます。その数の多さにいずれ驚嘆する日が来るでしょう。

**どのようにして神殿に参入する準備をすればよいのでしょうか。** 新会員としてあなたが掲げる最も重要な目標の一つは、

神殿で自身のエンダウメントを受け、家族の結び固めを受けることです。簡潔に言うと、エンダウメントとは天の御父と聖なる約束を交わし、天の御父から祝福を受けることです。結び固めを受けるとは、神権の権能と自分自身のふさわしさを通して祝福を受け、永遠に家族とともにいられることです。

神殿は神聖な場所ですから、参入するにふさわしくあり、神殿で学ぶ事柄を受け入れる準備ができていなければなりません。ビショップまたは支部会長から、神殿準備のためのクラスに出席するよう勧められるかもしれません。神殿に参入する準備のために引き続き<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を納め、教会指導者を支持し、罪や悪事を悔い改め、毎週教会に出席し、知恵の言葉と純潔の律法を守り、証を<sup>あかし</sup>強める必要があります。

12歳以上の人々がバプテスマと確認を受けて教会員になると、間もなくビショップあるいは支部会長の面接を受けて、限定推薦状を受けることができます。これは、死者のためのバプテスマや確認の儀式を行うための推薦状です。成人はバプテスマを受けて1年たつと、神殿でこれまで以上の祝福や聖約を得るために努めることができます。ビショップまたは





**あなたにとって最も重要な目標の一つは、神殿で家族に結び固められることです。**

支部会長、ステーク会長または伝道部会長から面接を受ける手配をしましょう。もしあなたがふさわしく生活し、準備ができていれば、あなたが神殿に参入するための推薦状に、これらの指導者の署名が得られるでしょう。

**家族歴史とは何ですか。** 家族歴史とはあなたと先祖の人生の記録です。教会員は家系図や日記、個人の履歴を含めた家族の記録を保存し、調べるように勧められています。このような記録があれば、亡くなった人々も神殿の祝福が受けられます。家族の歴史を記すなら、あなたやあなたの子孫は永遠に続く家族関係に感謝するようになり、自分の霊的な経験を記録するうえでも役に立つでしょう。例を挙げると、自分のバプテスマと確認について思い出してみ、そのときに感じた気持ちや思いを書き留めるのです。そのような出来事について記

録すれば、あなたや子孫はあなたの霊的な記録を重宝するでしょう。

ワードまたは支部の家族歴史スペシャリストは、あなたに手を貸したいと願っています。また、教会の家族歴史ウェブサイト <http://www.familysearch.org> を参照してもよいでしょう(訳注——このサイトは英語のみのサイトです)。

**どうすれば教会の中で友人ができるでしょうか。** あなたはすでに友人に囲まれています。教会に入るといえることは、愛にあふれる仲間の大きな輪に加わるということです。ビショップや支部会長、その顧問、ほかにも指導者や会員たちが、福音の中であなたが喜びを見いだせるように心から願っています。神権を持つ二人の男性があなたのホームティーチャーになります。彼らは少なくとも月に1度、あなたを訪問して福音のメッセージを伝えます。あなたが女

## **ビショップは あなたの友人です**

ビショップまたは支部会長と親しくなりましょう。ビショップはワードを、また支部会長は支部を管理する神権指導者で、青少年に対して特別な責任を担っています。会員はビショップや支部会長から面接を受け、神殿や祝福師の祝福に備える方法を学びます。さらに、人に奉仕する機会について教えられ、福音を学習するための資料を受け取ります。ただし、資料は別の指導者から受け取ることもあります。

## **総大会**

教会では毎年4月と10月に総大会が開かれます。総大会では2日にわたって集会が開かれ、中央の教会指導者が集会の中で話をします。総大会の様子は一部のテレビ局やラジオ局、そして衛星を通じて世界中の集会所に放送され、インターネットでは <http://www.lds.org> で視聴できます。指導者の説教は5月号と11月号の『リアホナ』に掲載されます。

## 旅行する場合

世界各地に所在する、教会の集会所を探すには、<http://www.lds.org> の“Other Resources”（その他の情報）の“Meeting house Locator”（集会所検索機能）を活用してください。ビショップまたは支部会長や地域管理本部に尋ねたり、国別ウェブサイトや、さらには電話帳で調べたりすることもできるでしょう。（訳注——日本国内向け教会国別公式ウェブサイト集会所を探す場合は、<http://www.ldschurch.jp> の「全国の教会検索」を活用してください。）

## 転居する場合

教会に所属する特権の一つは、どこに転居しても転居先に会員記録が送られることです。会員記録には名前と生年月日だけでなく、バプテスマや確認の儀式など、教会員として人生を送るうえで重要な日付や出来事も記載されています。引っ越し先のワードまたは支部に会員記録が送付されるように、ワードまたは支部の書記に引っ越し先の住所を伝えましょう。



あなたはワードや支部でたくさんの友人を得るでしょう。

性なら、ホームティーチャーに加えて、二人の女性があなたの訪問教師になります。時を経るにつれ、あなたはたくさんの末日聖徒の友人ができるでしょう。

友人を得るための最良の方法は、自分から友人になることです。思いやりの手を差し伸べることを恐れないうください。

**どうすれば参加できますか。** 教会員が責任を与えられるのは、奉仕を通して学び、成長し、時間や才能を使って人を祝福するためです。あなたも話や祈りをしたり、聖句を読んだり、聖歌隊に参加したり、召しと呼ばれる特定の割り当てを受けたりするように頼まれるかもしれません。でも恐れないうください。訓練を受けられます。それに、会員や指導者の助けがあるでしょう。間違ふことがあるかもしれません。皆、間違いをします。でも、最善を尽くし、主の助けがあることを信頼しましょう。これは主の業です。主はあなたを祝福されるでしょう。

**人を助けることについてはどうですか。** 教会では、助けが必要な人々に奉仕する機会が定期的にあります。奉仕の機会、教会主催

の奉仕活動や割り当てを通してたくさん訪れます。そしてさらに、救い主の模範に倣うなら、多くの善を行うことができます。すなわち、病気の人を訪れ、悲しむ人々を勇気づけ、できる範囲で人の重荷を軽減することです。「救い主ならどうされるだろうか」と自問してください。そして、それを成し遂げるために最善を尽くしてください。

**楽しい時間はありますか。** ほとんどのワードや支部では社交的な活動が開かれます。これらの活動を通して、教会の会員たちはとても楽しい時間を過ごすことができます。恥ずかしがり屋の人も、どうすればよいか分からない人も、まずはその場に足を運んでみてください。そして周囲にいる人々と親しくなしましょう。いすを並べたり、後片付けを手伝ったりしてもよいか尋ねてみましょう。教会の中では、奉仕も遊びも皆で協力して行ふのです。

**これからも続けて福音を学ぶにはどうすればよいでしょうか。** 最良の方法の一つは、祈りの心で毎日聖文を読むことです。聖文や末日の預言者の教えについてさらに学ぶために、日曜日

の集会にはもちろん出席してください。また、セミナー(10代の青少年対象)やインスティテュート(ヤングアダルト対象)など、週日の学習プログラムもあります。ほかの会員に尋ねてみてください。どのようなプログラムがあるかが分かるでしょう。

**祝福師の祝福とは何ですか。** 祝福師の祝福は、人生の導きとなる勧告と知恵を受ける祝福で、メルキゼデク神権の祝福師の職に聖任された男性から聖霊の靈感を通して授けられます。ビショップまたは支部会長に、この祝福を受けるためにどのような準備をしたらよいかを聞くことができます。

**什分の一以外にどのような献金を納めるのでしょうか。** 月に1度(通常は第1週の日曜日に)、会員は2回の食事を断ち、貧窮している人々を

助けるために、取らなかった食事代に相当するお金を断食献金として納めます。

教会はまた、世界中で人道支援活動、神殿活動、伝道活動に携わっています。可能であれば、これらの活動を支援するために献金できます。この場合、什分の一や断食献金を納める封筒と一緒に入れます。(訳注—日本では、「什分の一・献金票」に献金の種類と金額を記入し、郵便局の振り込みを通して献金します。)

**どうすれば福音を人に伝えることができますか。** 光となってあなたの模範を示し、教会に加わった喜びを人に伝えてください。人々に専任宣教師と会うように勧めましょう。モルモン書を渡しましょう。御霊に促されるままに証を述べましょう。その際、論争にならないように思いやりと親切な気持ちで述べてください。会員や宣教師は喜んで伝道活動にあなたを加え、あなたが人に福音を伝えるときには、助言をしてくれるでしょう。

**どうすれば天の御父とイエス・キリストをいつも近くに感じ、また、聖霊の力をこれからもずっと感じられるでしょうか。** 最良の方法の一つは、毎週ふさわしい状態で聖餐を受けることです。聖餐の祈りを通して、バプテスマと確認の儀式を受けたときに天の御父と交わした約束を、思い出すことができます。すなわち、進んでイエス・キリストの御名を受け、いつも主を覚え、主の戒めを守るという約束です。これらの事柄を行うなら、いつも主の御霊を受けられると約束されています。また、安息日を聖く保つことによっても祝福を受けます。

また、しばしば祈り、聖文を読み、神の戒めを守ることを通して、御霊がとどまるように努めてください。

**ほかに知っておくべきことは何でしょうか。** 何よりも、イエス・キリストの福音が真実であることを覚えておいてください。天の御父は憐れみ深く親切で、あなたが自分の選択によって教会の会員になったことをお喜びになっています。元気を出しましょう。そして、神には何でもおできになることを覚えておきましょう。■

## 教会書籍が必要な場合

居住地に配送センターがあれば、そこを訪ねてみてください。配送センターではパンフレットや生徒用資料、機関誌、ポスター、ビデオ、その他の教会書籍を、低価格、もしくは無料で入手できます。アメリカとカナダでは <http://www.ldscatalog.com> で書籍を注文することもできます。(訳注—日本では、東京都港区南麻布にある東京神殿の敷地内にブックセンターが、江戸川区西小岩に配送センターがあります。注文の場合は、ワードや支部の図書委員を通して注文用紙を入手するか、直接配送センターに電話をする方法があります。配送センターの電話番号 03-5668-3391)

## 教会用語の意味を知りたい場合

様々な方法で調べることができます。ほかの会員に聞くことができます。『福音の原則』(31110 300) や『真理を守る』(36863 300)などの教会書籍には用語集があります。また、<http://www.mormon.org> や今月号の「リアホナ」の48ページにある語彙集を参照してもよいでしょう。



# 知っておくと役立つ言葉

今月号の記事には多数の用語が定義されています。  
なじみのない用語を調べるうえで、次の一覧も役立つでしょう。

**証**——聖霊によって明らかにされた、信仰上の確信。父なる神とイエス・キリストが実在し、御二方の教えと福音の回復が真実であることについての確信。証を述べる場合、この確信についての簡潔な、心からの言明を人々の前で行います。

**アロン神権**（「神権」の項も参照）——この神権は、12-18歳のふさわしい若い男性と、教会に新しく加わった成人男性会員が保持します。アロン神権には、ビショップ、祭司、教師、執事の職があります。この神権は備えの福音、すなわち、「悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音」をつかさどります（教義と聖約 84：27）。

**授手**——教会の聖任または祝福を施すために神権者が人の頭に手を置く行為。

**解任**——それまでの奉仕に対する感謝の意を表明して、会員を教会の割り当てまたは役割から解くこと。

**儀式**——バプテスマ、聖餐、神殿の儀式など、会員が神と聖約（約束）を交わすときに行う神聖な儀礼または礼式。

**教師**——(1)通常、14-15歳の若い男性が保持するアロン神権の職。(2)教会のクラスまたは定員会を教える人。

**兄弟／姉妹**——わたしたちは皆、天の御父の子供なので、会員は姓の後に「兄弟」または「姉妹」という言葉を付けて互いのことを呼びます。

**祭司**——アロン神権における一つの職。通常、16-18歳の若い男性と、教会に新しく加わった成人男性会員が保持します。

**支持する**——教会の召しにおいて奉仕している人々を支援したり、教会で行われる管理上の決定に対して賛意を表明したりすること。通常、集会の中で教

会指導者から求められたときに右手の挙手によって表明します。

**死者のためのバプテスマ**——生きている人は亡くなった人々の身代わりとして神殿でバプテスマを受けます。この儀式は、現世の生涯でイエス・キリストの教えを受けずに亡くなった人々にバプテスマの祝福にあずかる機会を提供します。

**執事**——通常12-13歳の若い男性が保持する、アロン神権の職。

**姉妹**——「兄弟／姉妹」の項を参照。  
**什分の一**——教会に納める、収入の10パーセントの献金。

**初等協会**——3-11歳の子供たちのための教会組織。

**神権**——神の御名によって行動できるように神から授けられた権能と力。12歳以上のふさわしい男性会員は神権の権能を受けることができます。

**神権の祝福**——メルキゼデク神権者が、癒し、慰め、または勧告を与えるために行う祈り。祝福を受ける人の頭に手を置いて授ける。

**神殿**——死者のためのバプテスマ、エンダウメント、家族の結び固めなど、神聖な儀式を執行するために奉獻された教会の建物。

**聖任**——教会のふさわしい男性会員に神権の権能を授けらるること。

**聖約**——一人の人または複数の人々と神の間で交わされた、神聖な約束または合意。

**中央幹部**——教会全体の職務を管理するメルキゼデク神権指導者。この中に大管長会、十二使徒定員会、七十人会長会、七十人第一および第二定員会、管理ビショップリックが含まれます。

**定員会**——執事、長老、七十人の会員など、同じ神権の職を保持する若い

男性または成人男性から構成されるグループ。

**伝道部／伝道部会長**——専任宣教師が奉仕するための、地理上の区域。伝道部の指導者は伝道部会長と呼ばれます。

**任命**——正しい権能を持つメルキゼデク神権者の授手によって、教会の召しに関する責任と祝福を教会員に授与すること。

**扶助協会**——18歳以上の女性のための教会組織。

**末日聖徒**——末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を指す略称。

**ミューチャル**——12-17歳の青少年を対象とした週日の夜の集会または活動。

**召し**——教会の中での奉仕の割り当てまたは立場。それぞれの召しには、具体的に決められた務めがあり、会員は解任されるまでその務めを果たします。解任されるのは、大抵、新しい割り当てを受けるためです。

**メルキゼデク神権**（「神権」の項も参照）——ふさわしい成人男性会員（18歳以上）は、地元の神権指導者の指示の下でこの神権を受けることができます。この神権を保持する人々は教会を導き、子供の命名と祝福、聖霊の賜物の授与、その他の神権の儀式を行うことができます。この神権を保持するのは長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒です。

## 詳しく知りたい場合

これらの言葉やその他の用語についてさらに詳しく知りたい場合は、『聖句ガイド』や『真理を守る』（36863300）を参照するとよいでしょう。これらの資料は<http://www.lds.org>の「Gospel Library」にあります。

# わたしのもとに来なさい

わたしがあなたがたを癒<sup>いや</sup>することができるように  
(3ニーファイ9:13-14参照)





ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう記しています。  
「皆さんが最近バプテスマをお受けになったことを  
大変うれしく思い、心から歓迎いたします。  
皆さんは教会に改宗し、  
すばらしい一歩を踏み出されました。  
皆さんを援助するために、  
わたしたちにできることは  
何でもしたいと思っています。」  
(「完全な希望の輝き——新会員の皆さんへ」3ページ参照)